

平成30年度 文教委員会資料③

【所管事務の調査（報告）】

浮世絵等の活用に向けた基本方針（案）について

資料1 浮世絵等の活用に向けた基本方針（案）の概要

資料2 浮世絵等の活用に向けた基本方針（案）

資料3 浮世絵等の活用に向けた基本方針（案）に関する意見募集

市 民 文 化 局

（平成30年4月19日）

浮世絵等の活用に向けた基本方針（案）の概要

経緯等

- 平成28(2016)年9月：「川崎・砂子の里資料館」休館
- 平成13(2001)年の開館以来、「公益社団法人川崎・砂子の里資料館」が所有する歌川広重、葛飾北斎等の浮世絵を中心に、約15年間にわたる作品を展示(入場無料)
- 展示施設としては事実上閉館しており、休館後は他施設への貸し出しにより国内外の各所で展示
- 平成29(2017)年8月16日、同法人から市に対し、所有作品の市内における有効活用について検討を依頼⇒同年9月から市が正式に調査を開始

1-1 浮世絵の特性

- 浮世絵とは
江戸時代に成立した絵画作品で、版画が多く、当時は安価な量産品であった。当時の暮らしや流行などが反映されており、日本の歴史的な伝統や文化を伝える貴重な芸術作品である。
- 色彩の魅力
魅力の一つは多彩かつ繊細な色使いであり、版画作品のため同じ発色のものはなく、色彩や保存状態が作品の評価に反映される。
- 浮世絵制作と職人文化
浮世絵制作最大の特徴は、出版社にあたる版元の指示のもと、絵師、彫師、摺師が分業で作上げる体制で、職人の高い技術が不可欠であった。

- 展示環境
浮世絵は、彩色材料が変色あるいは褪色し、文化財としての貴重な価値が失われる可能性があるため、展示環境が重要となる。

展示期間	最長 4 週間程度
温湿度	温度20℃程度 / 湿度50～55%
照明	・紫外線の発生しないLED照明 ・明るさは30～50ルクス
消火設備	水消火ではなくハロン等のガス消火が望ましい

1-2 浮世絵が与えた影響と評価

- 浮世絵の日本独特の大胆な空間表現や色彩使いなどが、モネやゴッホといった西洋の画家たちに大きな影響を与えた。
- 日仏友好160周年記念事業として「ジャポニスム2018」の開催が計画されており、浮世絵の展示も予定されている。
- 平成19(2007)年にロンドンで行われた競売で、葛飾北斎の「凱風快晴」が288,500ポンド(約6,800万円)で落札。平成28(2016)年にパリで行われた競売で、喜多川歌麿の版画「深く忍恋」が745,000ユーロ(約8,800万円)で落札。
- アメリカ・LIFE誌「この1000年で最も重要な功績を遺した100人」に、葛飾北斎が日本人で唯一選出されている。
- 平成29(2017)年にはロンドンの大英博物館で葛飾北斎の作品を中心に紹介する特別展が開催され、約15万人が来場した。

1-3 川崎・砂子の里資料館

1-4 (公社)「川崎・砂子の里資料館」の浮世絵コレクション

- これまでの活動
専門的な学芸業務のもとで浮世絵作品を中心とした企画展を毎月開催し、長期間展示できない浮世絵の特性を踏まえた展示運営を行ってきたことで、世界に誇る江戸浮世絵文化に川崎市民をはじめとする多くの来館者が触れることができた。
また、展示図録としてカラー刷りの作品レポートも毎回無料で配布するなど、文化啓発を積極的に行ってきた。
- 豊富なコレクション
所有作品 約3,000点 / 希少性の高い肉筆画約100点を含む
- 高い希少性
「東海道五十三次」「富嶽三十六景」など、シリーズの全てが揃った高い希少性
- 川崎の郷土性を起点に収集
川崎や神奈川県にゆかりのある作品を起点に収集された郷土性に満ちたコレクション
- 歴史体系に沿ったコレクション
北斎・広重をはじめ、初期の菱川師宣～幕末・明治まで浮世絵の歴史を総合的に幅広く体感できるコレクション
- 国内外での高い集客性
平成25(2013)年：@三菱一号館美術館 69日間で約66,000人を動員
国内はもとより海外（アメリカ、フランス、イタリア等）への出張展示・貸し出しにおいても高い集客性を発揮

【所有作品の例】



葛飾北斎 「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」



初代歌川広重 「六郷の渡し」

1-5 浮世絵コレクションの特性をふまえた課題

- 浮世絵は、比較的手頃なサイズの版画でありながらその繊細な色使いも魅力である一方、保存環境によっては作品の劣化が早く、同じ作品でも異なる色彩になるという特徴がある。これらの特性から、浮世絵活用の際は、作品を近くでじっくりと見せることと、展示期間・環境に留意する必要がある。
- 浮世絵は、その作品の魅力も然ることながら、大衆芸術として、当時の生活文化・職人文化（産業文化）なども物語っている。その背景にある文化を、作品の鑑賞に加え、体験・体感を交えて多角的に伝えることが効果的である。
- 郷土性に満ちたコレクションは地域の歴史を後世に伝えるための川崎の貴重な文化資源であり、海外からの高い関心も寄せられていることから、これらは他に散逸させることなく川崎で活用していく価値がある。

1-6 浮世絵コレクションの特性をふまえた活用の方向性

① 良質な文化芸術作品の鑑賞機会の提供

浮世絵の特徴である繊細な彩色や保存環境に配慮した作品の見せ方や展示企画を検討し、美術品としての浮世絵の魅力をも最大限に活用した展示を行うことで、鑑賞者により質の高い文化芸術に触れる機会を提供する。

② 浮世絵の背景にある文化を体験などを通じて発信

作品の鑑賞だけでなく、その背景にある当時の生活文化・職人文化（産業文化）を、体験・体感を交えて多角的に伝えることで、親しみながら歴史文化に触れる機会を創出する。

③ 浮世絵の活用を通じたまちへの愛着と誇りの醸成

川崎の文化を物語る浮世絵作品等を多く所有する法人のコレクションは、地域の貴重な文化資源であり、それらを活用して、川崎の歴史文化を発信し、後世に伝えることで、市民のまちへの愛着と誇りを醸成する。

④ 浮世絵を活用した新たなにぎわいの創出

近年、アメリカ、フランス、イタリアなどの美術館での企画展で浮世絵が展示されるなど、海外からの関心も高い法人の浮世絵コレクションを活用し、今後増えることが予想される訪日外国人旅行者にも魅力を発信し、誘客していくことで新たなにぎわいを創出する。

浮世絵等の活用に向けた基本方針（案）の概要

2-1 川崎駅周辺地区の動向

浮世絵コレクションの活用立地や事業展開等の検討にあたり、旧東海道や川崎大師といった浮世絵との親和性の高いエリアであり、かつ東京2020オリンピック・パラリンピックも踏まえ国内外からの誘客に最も効果的なエリアと考えられる「川崎駅周辺地区」の現状と課題から活用の方向性を抽出

●商業機能等の集積

J R川崎駅西側にラゾーナ川崎プラザ、東側にはアトレ川崎、川崎アゼリア、川崎ルフロン、DICE川崎、ラッタテッラなど大規模施設や商店街の集積ほか、市内の宿泊施設も川崎駅周辺に集中している。

●既存の文化・交流機能

ミュージアム川崎シンフォニーホールをはじめ、ラゾーナ川崎プラザソル、川崎能楽堂では各ジャンルにおいて良質な文化芸術の鑑賞機会を提供している。またアートガーデンかわさきは、主に市民のアートの発表の場として、東海道かわさき宿交流館は、川崎宿に関する歴史・文化等の展示やまち歩きの拠点としても利用されている。

●川崎駅の立地優位性

川崎駅は、日本の玄関口である羽田空港から近く、鉄道・バスでアクセスしやすい立地であり、また東海道新幹線やリニア中央新幹線（平成39（2027）年開通予定）の起点となる品川駅からも1駅でアクセスできるなど、国内の交通の結節点に近く国内外からの来訪者が訪れやすい立地にある。

●川崎駅周辺の回遊性の向上

平成30（2018）年のJ R川崎駅「北口通路」の整備により、JR川崎駅東西の往来の利便性の向上と、羽田直結の京急川崎駅やバスターミナルといった駅周辺の回遊性が向上。

●観光情報サービスの国際化に向けた整備

J R川崎駅「北口通路」に「かわさき きたテラス」が整備され、観光案内・魅力の発信、訪日外国人旅行者にも対応可能なコンシェルジュサービスを実施。

●直近10年での大規模イベントの開催

ラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピックといった世界的イベントのほか、東海道川崎宿起立400年〔平成35（2023）年〕、市制100周年〔平成36（2024）年〕、川崎大師開創900年〔平成39（2027）年〕など、今後10年の間に川崎市の歴史に大きく関わるイベントが多く予定されている。

2-2 本市の政策の方向性

1) 川崎市総合計画

【基本政策4】活力と魅力あふれる力強い都市づくり

それぞれの地域の歴史や文化に根ざした川崎らしさを大切にするとともに、スポーツや音楽などの地域資源を磨き上げ、それらが融合しながら変貌を遂げる国際都市川崎の多彩な魅力を発信します。こうしたことにより、都市ブランドを確立し、市民が愛着と誇りを持ち、一層多くの人々が集い賑わう好循環のまちづくりを進めます。

スポーツ・文化芸術を振興する【政策4-8】

スポーツ・文化芸術活動を通じて市民が感動を分かち合うとともに、こうした活動をさらに促進することで、自ら暮らすまちに抱く愛着と誇りを次世代に継承していきます。

戦略的なシテプロモーション【政策4-9】

新たな地域資源の発掘・創出に取り組むとともに、市民や企業などと効果的なコラボレーションを図り、川崎の魅力が広く伝わる戦略的なシテプロモーションを推進します。

2) 第2期文化芸術振興計画

■文化芸術や地域の特性・資源を活かしたまちづくり【基本目標1】

音楽や映像、歴史や伝統文化など、地域資源を活かしたまちづくりを推進するとともに、これらの魅力を積極的に国内外に向けて発信し、市民の地域への愛着を増進するとともに都市イメージのさらなる向上を図ります。

■「川崎の文化」の国内外への発信【基本目標1/施策3】

魅力的な川崎の文化芸術を育てるとともに、国内外に向けて発信することにより、都市イメージの向上や観光客の誘致を図り、個性と魅力が輝くまちづくりを進めていきます。

3) 新・かわさき観光振興プラン

■世界に通用する観光づくり【戦略3.「川崎駅周辺エリア」の国際的な観光拠点化】

川崎駅周辺の商業集積力や交通利便性など恵まれた立地条件を活かし、広域エリアが一体となって買物、エンターテインメント、文化芸術、スポーツ、飲食、宿泊など総合的な機能を強化し、国際的な観光拠点性を高めます。

4) 川崎駅周辺総合整備計画

■回遊性の強化【基本施策2】

東海道など地域の歴史・文化資源を活かした、新たなまちの魅力創造・発信するなど、地域への愛着を持てる魅力あるまちづくりを推進します。

■グローバル化への対応【基本施策6】

羽田空港の国際化の進展や、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催等による新たなビジネスチャンスの活用、地域資源や立地特性を活かした観光・商業の振興を図るため、国際化を見据えたまちづくりを推進します。

5) 京急川崎駅周辺地区まちづくり整備方針

■まちづくり基本方針

羽田空港直結の立地特性を活かした国際性豊かにぎわいのあるまちづくり

2-3 川崎駅周辺地区の動向をふまえた課題

○川崎駅周辺地区は、羽田空港からのアクセスの良さ、大規模な商業施設や宿泊施設の集積、川崎駅北口行政サービス施設（かわさききたテラス）での訪日外国人へのコンシェルジュサービス等、国内外からの観光客の誘客に高いポテンシャルを持っている。東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて世界中から日本への注目が高まっている中、川崎が国内外から多くの人が集まる国際的な文化都市として定着するためにも、立地優位性の高い川崎駅周辺地区において、川崎の文化を積極的に発信していく必要がある。

○川崎の文化を継続的かつ効果的に発信するうえで、いつ訪れても「川崎の文化」に触れられる常設的な機会の提供が最も望ましいが、現状、川崎駅周辺にはミュージアム川崎シンフォニーホールをはじめとした実演芸術の鑑賞機会の提供を目的とした文化施設が多く、絵画などの芸術作品を鑑賞できる常設の展示施設が少ない。

○地域の歴史・文化資源を活かした特徴ある新たな文化芸術施設を創出し、川崎駅周辺エリアとしてのまちの魅力の向上とにぎわいづくりに活用するとともに、市内にある既存の地域資源との連携により、川崎駅周辺エリアから市内全域へと回遊性を向上させる必要がある。

2-4 川崎駅周辺地区の動向をふまえた活用の方向性

①川崎駅周辺地区の立地優位性を活かした文化芸術の発信

商業・サービス業、文化・交流など様々な機能が集積したにぎわいの中心であり、国内外からの立地優位性も高い川崎駅周辺地区から、川崎の文化芸術を積極的に発信し、国際的な文化都市としての認知度の向上を図る。

②更なる回遊性を図るための戦略的な誘引

今後の増加が見込まれる来訪者に対し、何度も気軽に立ち寄ることができるよう、常に新たな文化・芸術体験・サービスを提供するなど、駅周辺へ戦略的に誘引することで、更なる回遊性の向上を図る。

③鑑賞及び文化芸術体験の提供による文化的魅力の向上

川崎駅周辺地区に、芸術作品の常設的な鑑賞機会を創出するとともに、体験などの新たなサービスを提供していくことで、市民の文化体験を通じた地域への愛着の醸成や文化・観光施設の充実による魅力向上につなげる。

④観光交流機能の国際化と広域的ににぎわいの創出

東京2020オリンピック・パラリンピックを見据え、訪日外国人に向けた地域の魅力や「和」の文化発信など、羽田からの玄関口である川崎駅周辺地区の国際的な観光拠点化を推進し、広域的ににぎわいを創出する。

浮世絵等の活用に向けた基本方針（案）の概要

3-1 検証に基づく浮世絵コレクションの活用についての考え方

旧東海道、川崎大師などの歴史・文化資源をはじめとした市内にある様々な地域資源との回遊性を高め、新たな賑わいを創出し、本市の魅力が国内外に広く発信するとともに、多くの観光客を誘客する取組を進めるために、公益社団法人川崎・砂子の里資料館が所有する浮世絵コレクションを川崎駅周辺で活用する必要があると考えます。

3-2 活用の視点

① 展示規模	② 事業展開	③ 立地	④ ターゲット	⑤ 活用開始の時期
展示規模は色彩の特徴を作品の近くで見せること、高い頻度で展示を更新する必要性をふまえ、シリーズ作品が1回で展示可能なコンパクトな規模（55枚～60枚程度）で効果的・効率的に展示	浮世絵コレクションの展示だけでなく、「体験・体感」をはじめとした新たな交流を生む事業や、物販などといった多彩な事業を展開	羽田空港への玄関口のひとつである川崎駅周辺地区の中で、J R川崎駅・京急川崎駅・バスターミナルといった交通の要所に近接し、旧東海道からも近い立地	川崎市民とともに、J R川崎駅・京急川崎駅周辺を訪れる通勤・通学客、商業施設・宿泊施設等の利用者、新幹線や羽田空港を利用する国内外からの旅行者等をターゲットとして想定	観光交流の国際化による訪日外国人観光客数の増加という目標も踏まえ、東京2020オリンピック・パラリンピックを誘客・波及効果拡大の最大の機会と設定

3-3 活用コンセプト

“歴史×文化×芸術”による新しいエリアの創造
 浮世絵という世界に誇る川崎ならではの
 “歴史×文化×芸術”資源を活用し、
 様々な地域・世代をつなぐ
 新たなにぎわい創出プロジェクト

3-4 活用方針

- (1) 川崎の“歴史×文化×芸術”資源の活用
- (2) 浮世絵を通じた川崎の歴史・文化の継承
- (3) 他施設との連携による日本文化の魅力発信
- (4) 「川崎ならではの」の価値によるにぎわいの創出

- 「浮世絵コレクション」の有効活用を通じて、東海道や川崎大師地区などの周辺地域へと歴史文化の軸をつなげていきます。
- 浮世絵の活用を通じて、川崎の歴史・文化を後世に伝え、市民の地域への愛着と誇りを醸成します。
- 市民ミュージアム等他施設と連携し、川崎から日本文化の魅力が国内外に発信し、文化都市としての魅力の向上を図ります。
- 立地優位性がある川崎駅周辺地区において、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて、国内外の旅行者等を誘客し新たなにぎわいを創出します。

3-5 活用候補地に関する考察

○川崎駅周辺にある既存の市所有施設の改修を前提に、下記2施設を候補地として絞り検討
 ○5つの「活用の視点」から各項目ごとの適否を考察

活用の視点	川崎駅前タワー・リパーク3階「アートガーデンかわさき」文化財団事務室跡跡スペース 普通財産	適否	東海道かわさき宿交流館 3階展示室 行政財産/公の施設(指定管理)	適否
① 展示規模	・150㎡のうち展示可能なスペースは100㎡程度 ・壁かけ55枚～60枚に加え、覗きケースやハイケースでの作品展示スペースを確保することができる。 ・3～4週間の頻度で展示替えを要する浮世絵作品の特性に合った規模であり、常設ギャラリーとして展開可能。	◎	・展示可能なスペースは50㎡程度 ・パネルで仕切れば壁かけで55枚の展示は不可能ではないものの、鑑賞者の十分な動線やケース展示のスペースは確保できず常設ギャラリーには適さない。	△
② 事業展開	・作品展示以外の「体験・体感」といった事業スペースが不足しているが、展示スペース内のレイアウト変更やアートガーデンの第1～3展示室を活用すれば、一時的な事業展開は可能。	○	・常設ギャラリー化した場合には従来行っている館の企画事業ができなくなるため、既存の指定管理業務を整理する必要がある。 ・3階展示室と併せて4階会議室を活用すれば、「体験・体感」などの一時的な事業展開は可能	△
③ 立地	・J R川崎駅北口直結による利便性 ・観光案内所(かわさききたテラス)との連携による誘客 ・旧東海道への新たなアプローチ確立 ・アートガーデンの利用団体・来場者との波及的誘客効果 ・東海道かわさき宿交流館との回遊性への期待	◎	・浮世絵と親和性の高い旧東海道沿いにて事業展開することができ一方で、駅周辺のにぎわいの中心からは離れた立地となる。	○
④ ターゲット	・交通の要所に至近であり、駅利用者、観光客、羽田空港を利用する訪日外国人をターゲットとすることができる。	◎	・駅からのアクセスを考慮すると、観光客や訪日外国人をターゲットにするためには工夫が必要	○
⑤ 活用開始の時期	・最短で平成31年中に活用開始	○	・有料での常設展示の実施には設置条例の改正や指定管理者との調整が必要となるため、現指定期間終了後の平成35年度が基本となる。	×
参考 (想定される初期投資経費等)	全体で150㎡あるアートガーデンに比べ、展示可能スペース50㎡のみの東海道かわさき宿交流館における設備改修、展示制作の整備については安価となることが想定される。			

【比較施設の位置図】



2つの施設を比較すると、常設展示スペースの確保や北口通路との直結、J R川崎駅及び京急川崎駅との至近性等から、誘客効果の高い川崎駅前タワー・リパーク3階の「文化財団事務室跡跡スペース」の方が、活用候補地として適していると考えられる。

浮世絵等の活用に向けた基本方針（案）の概要

3-6 活用候補地の比較・検討結果

「アートガーデンかわさき」内に所在する現「文化財団事務室」の検討

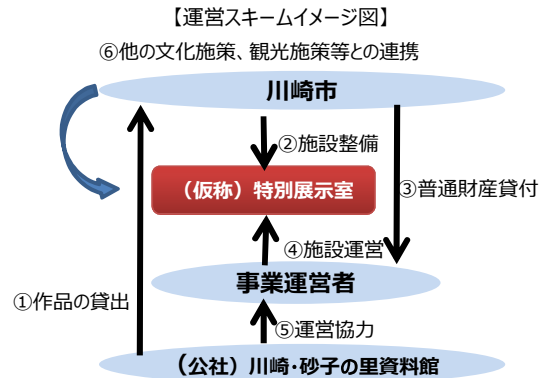
「音楽のまち・かわさき」推進協議会の事務局機能を文化財団に集約することに伴い、文化財団事務室は移転（平成30年6月予定）

場所	川崎駅前タワー・リパーク3階（現状：普通財産） 文化財団事務室跡スペース100㎡ + 会議室跡50㎡ = 計150㎡
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ J R川崎駅北口通路直結による利便性 ・ 観光案内所「かわさき きたテラス」との連携による誘客・回遊 ・ 京急川崎駅との近接性を活かしたインバウンド誘客（殿町地区や羽田空港連絡道路経由での来訪も視野） ・ 旧東海道への新たなアプローチの確立 ・ アートガーデン展示室や東海道かわさき宿交流館との波及的誘客効果や連携企画の開催 ・ 市所有施設の改装による活用 ・ 文化財団移転後のスペースの有効活用



3-7 施設運営形態等

- 「アートガーデンかわさき」は、市の普通財産として公益財団法人川崎市文化財団(以下「文化財団」という。)に貸付け、同財団では、第1～第3展示室の管理業務を行うとともに、事務室及び会議室として使用している。これは、文化財団が自主的に独自の企画展を開催したり、文化活動を支える市民の交流、創作活動の発表等の拠点としての有料貸出、即売ができるようにするためである。また、市の文化行政の一翼を担うことを目的に設立された文化財団に対し、その文化振興に資する環境づくりを行うことは財産活用の見地からも妥当であると判断したものである。
- 基本方針策定にあたり、川崎駅周辺の既存の文化施設の中で、「活用の視点」から検討した結果、アートガーデンかわさき事務室跡が候補地となり、当該候補地においてこれまでと同様に上記のような運用が適していると考えられることから、引き続き普通財産として貸付による運営について検討する。
- 市の文化行政の一翼を担うことを目的に設立された文化財団に対し、本件浮世絵等の活用を通じた更なる文化振興機能の強化を推進するため、事業運営者については、文化財団を視野に検討し、今後調整を図っていく。



3-8 想定される経費の項目

・下記の収支項目等を基に、今後、初期経費及び運営費の詳細について、精査・検討していきます。

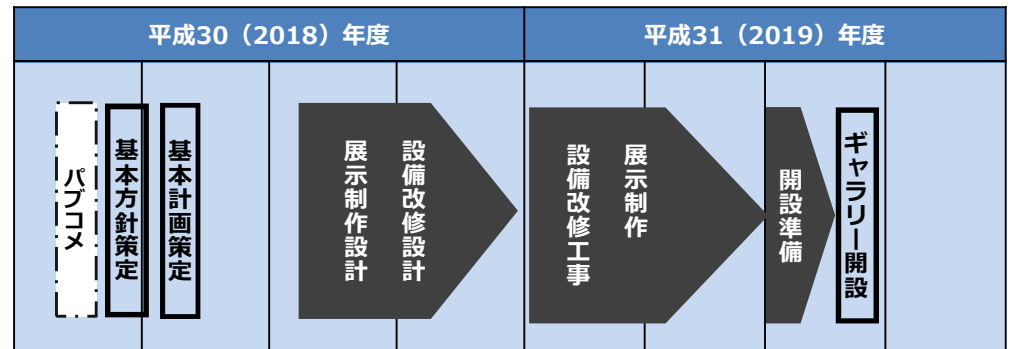
●初期経費項目

- ・開設準備 ・展示制作 ・内装、空調、照明、消火*設備改修 ※消火方法は調整中

●事業運営費収支項目

収入項目	支出項目	項目内容
入館料	人件費	専門学芸員、受付、監視等
グッズ販売収益等	事業費	広報、図録作製、額装、作品運搬、保険等
協賛金等	施設費	施設賃借料、光熱水費等
市補助金		

3-9 今後の想定スケジュール

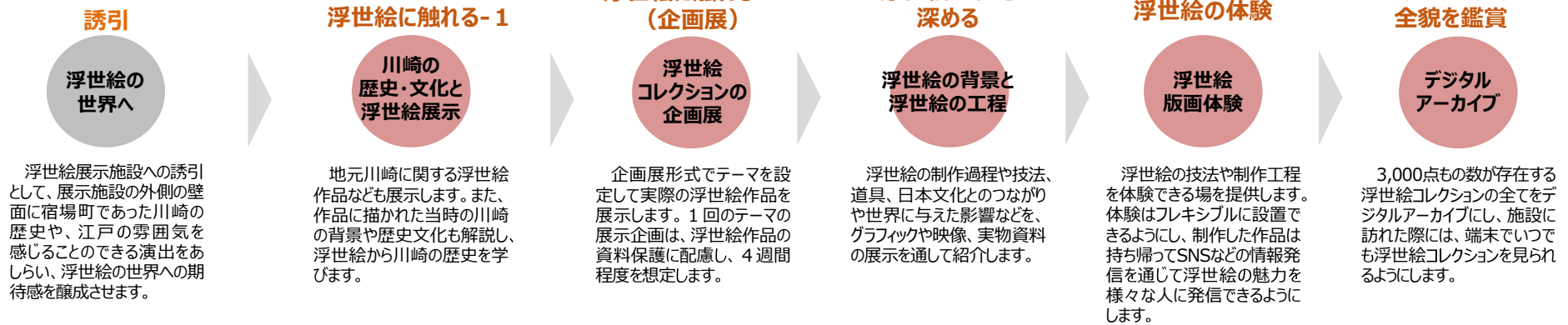


浮世絵等の活用に向けた基本方針（案）の概要

資料編 1. 展示計画（案）

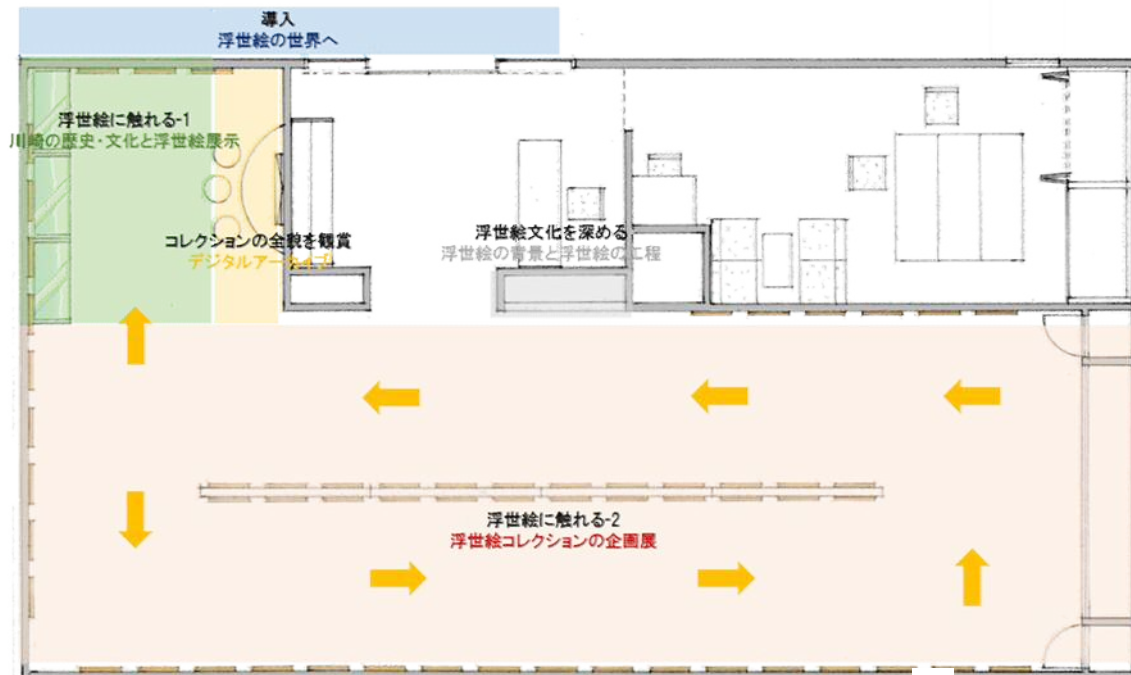
参考資料

■ 展示ストーリー案



■ ゾーニング及び動線イメージ

本平面計画では、計画にあたっての条件の中でも一番重要な条件である、額装された浮世絵作品を55枚以上展示できる計画としています。また動線は、一筆書きで周れるようなシンプルな動線を基本とする配置としました。中心の壁は可動壁となっており、今後の運営の中で、様々なテーマの浮世絵展示に対応出来るようにしています。浮世絵体験なども展示室内のレイアウトを変更することで、現在の施設規模の中で、様々な体験が出来るようにしています。

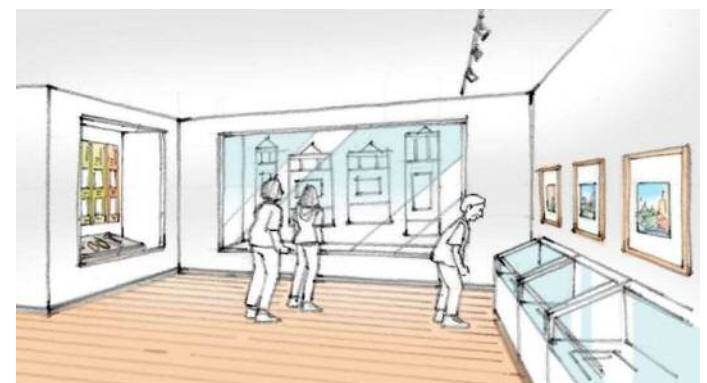


■ アイレバールイメージ

① 壁掛け展示イメージ



② ガラスケース展示イメージ



浮世絵等の活用に向けた基本方針(案)

平成30(2018)年4月

川崎市

目 次

はじめに.....	1
1. 基本方針(案)作成の経緯.....	1
2. 基本方針(案)の構成.....	2
第1章 浮世絵コレクションの特性.....	3
1. 浮世絵の特性.....	4
2. 浮世絵が与えた影響と評価.....	6
3. 川崎・砂子の里資料館.....	7
4. 「公益社団法人川崎・砂子の里資料館」の浮世絵コレクション.....	8
5. 浮世絵コレクションの特性をふまえた課題.....	9
6. 浮世絵コレクションの特性をふまえた活用の方向性.....	10
第2章 川崎駅周辺地区の動向.....	11
1. 川崎駅周辺地区の動向.....	12
2. 本市の政策の方向性.....	14
3. 川崎駅周辺地区の動向をふまえた課題.....	15
4. 川崎駅周辺地区の動向をふまえた活用の方向性.....	16
5. 川崎駅周辺地区の動向MAP.....	17
第3章 浮世絵等の活用に向けた基本方針.....	19
1. 検証に基づく浮世絵コレクションの活用についての考え方.....	20
2. 活用の視点.....	20
3. 活用コンセプト.....	21
4. 活用方針.....	21
5. 活用候補地に関する考察.....	22
6. 活用候補地の比較・検討結果.....	22
7. 施設運営形態等.....	24
8. 想定される経費の項目.....	26
9. 今後の措定スケジュール.....	26
資料編.....	27
1. 展示計画(案).....	28
2. 浮世絵等の有効活用に向けたあり方検討に関する学識者ヒアリング.....	33
3. 川崎市内の文化芸術機能及び類似事例.....	38
4. 川崎駅周辺地区のまちづくりの変遷.....	42

はじめに

1. 基本方針(案)作成の経緯

平成 28(2016)年 9 月 17 日に休館(現在、展示施設としては事実上閉館)した「川崎・砂子の里資料館」は、平成 13(2001)年の開館から東海道川崎宿沿いで約 15 年間にわたり歌川広重や葛飾北斎など、「公益社団法人川崎・砂子の里資料館」が所有する浮世絵作品等を展示してきました。

そして、平成 29(2017)年 8 月に、同法人から本市に対し、同法人所有の浮世絵コレクションを有効活用し、日本文化の世界への発信、文化芸術振興や地域の魅力向上のために資する効果的な方策の検討依頼の申し出がありました。

申し出を受け、浮世絵コレクションの有効活用の検討を行う前に、本市政策において、①日本文化の世界への発信、②文化芸術振興、③地域の魅力向上という方向性が合致しているかについて確認を行いました。

「川崎市総合計画」では、「東京オリンピック・パラリンピックや市制 100 周年を契機として、スポーツ・文化芸術活動を通じて市民が感動を分かち合うとともに、こうした活動をさらに促進することで、自ら暮らすまちに抱く愛着と誇りを次世代に継承して」いくこと、「海外にも通用する抜群の都市ブランドを確立し、市民が愛着と誇りを持ち、誰もが訪れたいくなる川崎をめざすため、地域資源を磨き上げるだけでなく、新たな地域資源の発掘・創出に取り組む」ことが掲げられています。

また、「川崎市文化芸術振興計画」では、「音楽や映像、歴史や伝統文化など、地域資源を活かしたまちづくりを推進するとともに、これらの魅力を積極的に国内外に向けて発信し、市民の地域への愛情を増進するとともに都市イメージのさらなる向上」を図ること、「魅力的な川崎の文化芸術を育てるとともに、国内外に向けて発信することにより、都市イメージの向上や観光客の誘致」を図ることが示されています。

確認の結果、本市政策を推進するにあたり、地域の歴史・文化資源として、同法人所有の浮世絵コレクションを有効活用することができる可能性が高いと考えたことから、浮世絵作品等美術品の適切な保管・展示の方法をはじめ、効果的な方策と必要な条件について専門的知見も交えた検証等を行うため、平成 29(2017)年 9 月に調査を開始しました。

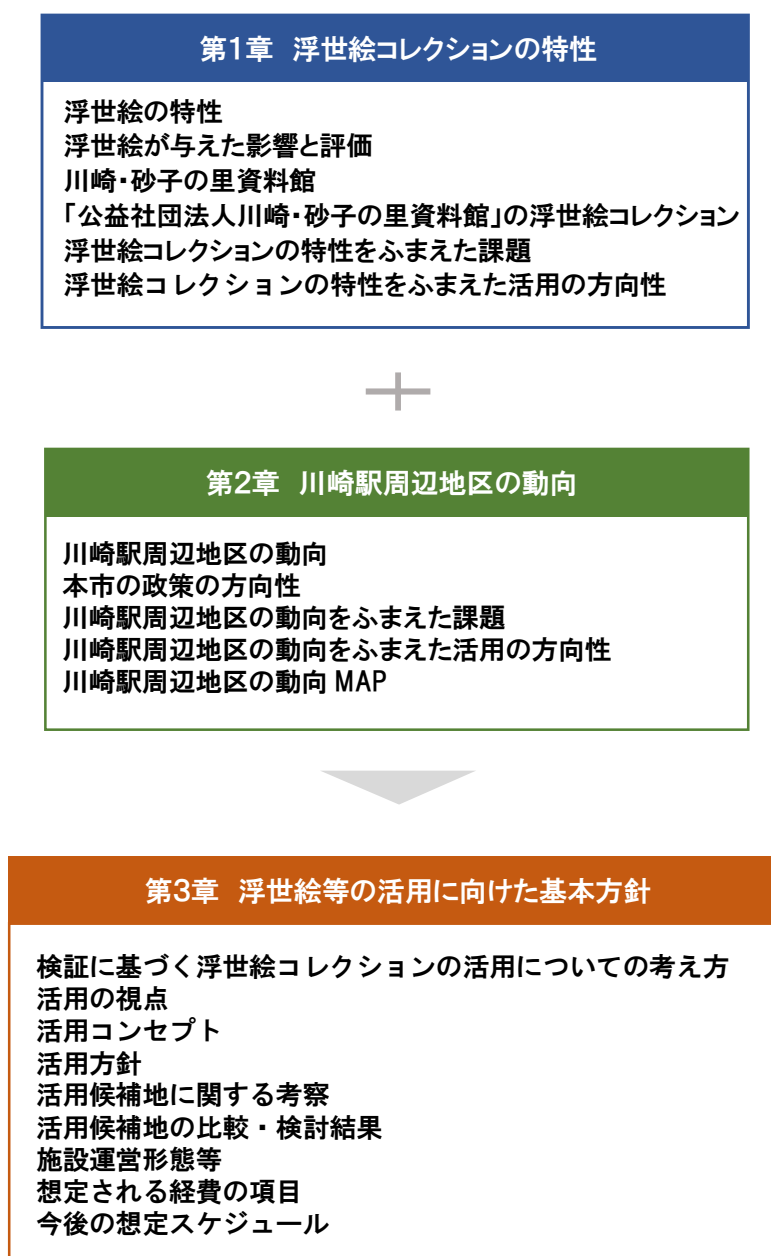
なお、旧東海道や川崎大師等、浮世絵との親和性の高さや、東京 2020 オリンピック・パラリンピックの開催を契機とした国内外からの観光客の誘客に最も効果的なエリアとして、川崎駅周辺地区での活用の可能性に焦点を絞って調査を実施しています。

この調査結果をふまえ、次のとおり本市として浮世絵コレクションの活用について検証を行い、計画的・効果的な推進に向けた基本方針(案)を策定しました。

2. 基本方針(案)の構成

本検討では、はじめに「浮世絵コレクションの特性」として、浮世絵そのものや、法人所有の浮世絵コレクションの特性等について検証を行い、続いて、川崎駅周辺地区の動向を整理し、本市関連政策の検証を行ったうえで、浮世絵コレクションの有効活用に向けた具体的な方向性を導き出しています。

これらの方向性をふまえ、浮世絵コレクションの活用コンセプトや活用候補地についてさらに検討を行い、基本方針(案)としてまとめました。



第1章 浮世絵コレクションの特性

本章では、浮世絵に関する特性として、その魅力や歴史背景、展示環境などの情報や、ジャポニスムとも言われた浮世絵が海外に与えた影響や現在の評価と、その浮世絵を川崎の旧東海道沿いで約 15 年間にわたり展示してきた「川崎・砂子の里資料館」と「公益社団法人川崎・砂子の里資料館」が所有する浮世絵コレクションの特性、海外での評価についてまとめています。

これらの項目から、浮世絵コレクションの活用のためのポイントを抽出し、有効活用に向けた検討のための材料としています。

1. 浮世絵の特性

(1) 浮世絵とは

- ・江戸時代に成立した絵画で、日本画のジャンルの一つである。
- ・浮世絵の“浮世”とは元々は「現代風な」「当世風な」「好色」といった意味を持っており、浮世絵で描かれるテーマはその当時の時代の暮らし、風俗、流行などが反映されたものが基本となる。
- ・単なる絵画にとどまらず、日本の歴史的な伝統文化を伝える作品群として貴重である。

(2) 版画・大衆芸術としての浮世絵

- ・浮世絵は江戸の町人たちの中から生まれた。絵の顧客である町人たちの求めに応じて常に変化を続けた商品としての絵であり、町人たちにとっての視覚的なメディアであった。
- ・大衆の関心に応じて発展した浮世絵の描写対象は多岐にわたる。浮世絵が江戸町人の中で育まれた絵であったこと、版画による量産品であったことから大衆芸術となった。

(3) 浮世絵の色彩の魅力

- ・浮世絵の魅力の1つは多彩な色使いである。特に青の表現に関しては評価も高く、「広重ブルー」という言葉も存在している。
- ・浮世絵は木版印刷の発展とともにある。木版画が発達する以前は肉筆の風俗画・美人画が富裕層の中で珍重されていた。
- ・江戸中期になると木版の墨摺り絵が多くつくられ、これに1～2色加えた紅絵、丹絵および丹緑絵などに発展し、さらに手彩色などで色を加えた時代を経て、多色摺り木版画へ発展した。
- ・多彩かつ繊細な色使いは、版画作品のため同じ発色のものはなく、色彩や保存状態が作品の評価に反映される。

(4) 浮世絵制作と職人文化

- ・江戸後期になると絵師・彫師・摺師の分業体制が整い、彩色豊かな作品が低価格で大量に生産できるようになった。
- ・浮世絵制作最大の特徴は、出版社にあたる版元の指示のもと、絵師・彫師・摺師の分業にある。
- ・低価格を特徴にした版画は、庶民の芸術となって流行し、浮世絵の主流は木版画によって占められた。

- ・特に、錦絵のような多色摺りになると「彫」と「摺」にかなりの手間と時間をかけていた。
- ・絵師がイメージした世界を具現化するには、彫師、摺師の名人芸ともいえる高い技術が不可欠であり、日本文化を代表する特色の一つである。

(5) 手軽に楽しめるサイズ

- ・浮世絵版画に使用される紙は時代によってさまざまであった。
- ・美濃紙の大判サイズのもので縦 33cm × 横 46cm であり、また浮世絵の中で一番大きいとされる丈長奉書の特大判でも縦 53cm × 72cm 程度であり、美術館に展示されている絵画とは異なり、手で持てるサイズのものが多いという特徴がある。

■ 主な浮世絵の判型

ここでは標準的な判型(サイズ)を紹介します。ただし、当時は紙自体が手作りで、摺り上がった時に端を裁断するため、大まかな数値となります。

【美濃紙】

判型	サイズ(縦×横)
大判	33cm × 46cm
	28cm × 37cm
細判	33cm × 16cm
大々判	33cm × 53cm

【大広奉書】

判型	サイズ(縦×横)
中判	29cm × 22cm

【小奉書】

判型	サイズ(縦×横)
間倍判	33cm × 47cm
間判	33cm × 23.5cm
細判	33cm × 15.6cm

【大奉書】

判型	サイズ(縦×横)
大倍判	39cm × 53cm
大判	39cm × 26.5cm
中短冊判	39cm × 13cm

【丈長奉書】

判型	サイズ(縦×横)
特大判	53cm × 72cm
柱絵	72cm × 13cm
長大判	53cm × 18cm

(6) 浮世絵の保存・展示の環境

- ・浮世絵の彩色は、天然の無機顔料や植物由来の染料、輸入された合成顔料等使われた材料が多種に渡っているため、保存状態によっては、彩色材料が変色あるいは褪色し、文化財としての貴重な価値が失われる可能性がある。
- ・浮世絵の保存環境は、温度 20℃程度、湿度 50～55%の一定の温湿度環境が推奨される。また、照明は資料への影響の少ないLED照明、消火設備は水消火ではなくハロン等のガス消火対応にするなどといった配慮が必要である。
- ・参考として東京国立博物館では、展示照明の明るさを 50 ルクスという暗い環境で展示をしており、浮世絵の展示は1年あたり4週間以内と展示期間を決めている。

2. 浮世絵が与えた影響と評価

(1) 浮世絵とジャポニスム

- ・ジャポニスムとは、安政 7(1860)年前後から大正 9(1920)年頃までの間、ヨーロッパ・アメリカなどの美術に日本美術が与えた影響をいう。
- ・ジャポニスムのきっかけは、版画家フェリックス・ブラックモン(1833-1914)による浮世絵の発見であり、焼き物の緩衝材に使われていた『北斎漫画』に魅了されたのであった。
- ・浮世絵の日本独特の大胆な空間表現や色彩使いなどが、当時の西洋の画家たちに強烈な印象を与えた。
- ・浮世絵は日本びいきの画家たちに競って買い集められ、モネやゴッホのように数百枚という単位で収集する者もいた。彼らは東洋の国への憧れを超えて、浮世絵からその造形的特質を学びとるようになった。
- ・近年では、日仏友好 160 周年記念事業として「ジャポニスム 2018」の開催が計画されており、浮世絵の展示も予定されている。

■ 浮世絵に影響をされた主な芸術家

- ・フィンセント・ファン・ゴッホ(1853-90)
「タンギー爺さん」(背景に 6 枚の浮世絵) 他多数
- ・エドゥアール・マネ(1832-83): 印象派の父。
浮世絵の色彩感覚、平面的な構図、太く明確な輪郭線描に影響を受ける。
- ・クロード・ドビュッシー(1862-1918)
「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」の影響で交響詩「海」を作曲
- ・エミール・ガレ(1846-1904)
『北斎漫画』の鯉や蛙をモチーフに作品を制作等
- ・ポーランド「日本美術・技術センター“マンガ館”」
館の名称の“マンガ”は『北斎漫画』から採用された

■ 海外の芸術家に影響を与えた主な浮世絵作品



歌川広重
「名所江戸百景 亀戸梅屋舗」



葛飾北斎
「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」



歌川広重
「名所江戸百景 京橋竹がし」

(2) 近年の海外からの評価

- ・平成 28(2016)年 6 月 22 日、フランスのパリで行われた競売で、喜多川歌麿の版画(連作画集「歌撰恋部」)に含まれる「深く忍恋」が 74 万 5000 ユーロ(約 8,800 万円)で落札された。主催者によると、落札額は日本の木版画としても歌麿の作品としても史上最高額という。
- ・平成 19(2007)年 11 月 8 日に行われた競売大手クリスティーズのオークションで、葛飾北斎の浮世絵作品『凱風快晴』が、版画では(2007 年当時)世界最高額となる 28 万 8500 ポンド(約 6800 万円)で落札された。
- ・ライフ誌「この 1000 年で最も重要な功績を遺した 100 人」の中で、日本人で唯一選出されたのが葛飾北斎であった。
- ・平成 29(2017)年 5 月 25 日にはロンドンにある大英博物館で葛飾北斎の晩年の作品を中心に紹介する特別展「Hokusai: beyond the Great Wave」が開催され、8 月 13 日までの開催で、約 15 万人もの来場者が訪れた。
- ・平成 29(2017)年 10 月 7 日にNHK BSプレミアムで放送された「北斎インパクト～世界が愛した超絶アート～」では、平成 29(2017)年に北斎の特別展が開催された、大英博物館と共同して、8K・超高精細カメラで調査し、北斎の絵の魅力や、世界に与えた影響について紹介した。

3. 川崎・砂子の里資料館

(1) 川崎・砂子の里資料館の概要

- ・平成 13(2001)年開館
(徳川家康が東海道に宿駅を制定してから 400 年の節目の年)
- ・入場料無料
- ・開館時間 10:00～17:00 (日曜・祝日休館)
- ・来館者 年間約 1 万人
- ・平成 28(2016)年 9 月 17 日をもって休館(事実上展示施設は閉館)

(2)川崎・砂子の里資料館のこれまでの活動

- ・東海道川崎宿沿いで約 15 年間にわたり歌川広重、葛飾北斎らの浮世絵を中心に展示していた。
- ・川崎・砂子の里資料館が法人として所有する浮世絵コレクションを中心とした企画展を毎月開催し、長期間展示できない浮世絵の特性をふまえた展示運営を、専門的な学芸業務のもと行ってきたことで、世界に誇る江戸浮世絵文化に川崎市民をはじめとする多くの来館者が触れることができた。また、展示図録として、カラー刷りの作品リポートも毎回無料で配布するなど、文化啓発を積極的に行ってきた。
- ・対象とする浮世絵コレクションの所有者は、「公益社団法人川崎・砂子の里資料館」である。
- ・休館後の浮世絵コレクションは、他館への貸出しにより平塚や狛江、ローマなど国内外の各地で展示されている。



川崎・砂子の里資料館外観

4.「公益社団法人川崎・砂子の里資料館」の浮世絵コレクション

(1)希少な作品を含む豊富なコレクション

- ・「公益社団法人川崎・砂子の里資料館」が所有する浮世絵コレクションは、わが国を代表する浮世絵一括収集のひとつである。
- ・「公益社団法人川崎・砂子の里資料館」所有の浮世絵コレクションの所蔵数は約3,000点(希少性の高い肉筆画約 100 点を含む)ある。
- ・コレクションの特性の1つに、浮世絵肉筆画(原画)が充実しているという事がある。
- ・「東海道五十三次」の全シリーズや、「富嶽三十六景」など、世界的にも有名なシリーズものを全作品揃えるなど高い希少性がある。

(2)川崎の郷土と浮世絵

- ・コレクションの特徴としては、川崎や神奈川県にゆかりのある作品を起点に収集された郷土性に満ちたコレクションである。
- ・川崎市全域に関する浮世絵の収集から東海道の名所や、横浜絵、東京の作品を中心として収集範囲が広がる。
- ・川崎の浮世絵の題材としては、江戸時代の旅人にとって江戸との別れを惜しむ情緒ある場所である多摩川六郷の渡しや、厄除け大師(お大師様という名刹)がある。

(3)歴史体系に沿ったコレクション

- ・収集当初は、川崎市や神奈川県に特化した作品を収集しており、後に歴史を追った系統的収集へと変わっていった。
- ・コレクションの特性は、特定の絵師やジャンル、時代に偏らない浮世絵の包括的なコレクションである。
- ・コレクションは、浮世絵の発生から爛熟時代に至る 300 年以上にわたった浮世絵の歴史を、総合的に幅広く体感できる特徴がある。

(4)国内外での評価・集客性

- ・コレクションは、他館への貸し出しを行っており、有名作品を中心に、国内外から多くの依頼がある。
- ・国内はもとより海外(アメリカ、フランス、イタリア等)への浮世絵作品の出張展示・貸し出しにおいて、高い集客性を発揮した。

【例】

平成 25(2013)年:三菱1号館美術館 (69 日間で約 66,000 人の集客)

平成 17(2005)年:ワシントンDC 「UKIYO-E」展

(5)コレクションの一例



葛飾北斎
「富嶽三十六景 凱風快晴」



初代歌川広重
「東海道五拾三次之内 箱根 湖水図」



柳々居辰斎
「六郷渡」



菊山英山
「風流六玉川 武蔵調布の玉川」

5. 浮世絵コレクションの特性をふまえた課題

- 浮世絵は、比較的手頃なサイズの版画でありながらその繊細な色使いも魅力である一方、保存環境によっては作品の劣化が早く、同じ作品でも異なる色彩になるという特徴がある。これらの特性から、浮世絵活用の際は、作品を近くでじっくりと見せることと、展示期間・環境に留意する必要がある。
- 浮世絵は、その作品の魅力も然ることながら、大衆芸術として、当時の生活文化・職人文化(産業文化)なども物語っている。その背景にある文化を、作品の鑑賞に加え、体験・体感を交えて多角的に伝えることが効果的である。
- 郷土性に満ちたコレクションは地域の歴史を後世に伝えるための川崎の貴重な文化資源であり、海外からの高い関心も寄せられていることから、これらは他に散逸させることなく川崎で活用していく価値がある。

6. 浮世絵コレクションの特性をふまえた活用の方向性

浮世絵作品等の活用に向けて、1～4で挙げた浮世絵コレクションの特性及び現状をふまえた課題から、活用における4つの方向性を抽出しました。

方向性 1

良質な文化芸術作品 の鑑賞機会の提供

浮世絵の特徴である繊細な彩色や保存環境に配慮した作品の見せ方や展示企画を検討し、美術品としての浮世絵の魅力を最大限に活用した展示を行うことで、鑑賞者に、より質の高い文化芸術に触れる機会を提供する。

方向性 2

浮世絵の背景にある文化を 体験などを通じて発信

作品の鑑賞だけでなく、その背景にある当時の生活文化・職人文化(産業文化)を、体験・体感を交えて多角的に伝えることで、親しみながら歴史文化に触れる機会を創出する。

方向性 3

浮世絵の活用を通じた まちへの愛着と誇りの醸成

川崎の文化を物語る浮世絵作品等を多く所有する法人のコレクションは、地域の貴重な文化資源であり、それらを活用して、川崎の歴史文化を発信し、後世に伝えることで、市民のまちへの愛着と誇りを醸成する。

方向性 4

浮世絵を活用した 新たなにぎわいの創出

近年、アメリカ、フランス、イタリアなどの美術館での企画展で浮世絵が展示されるなど、海外からの関心も高い法人の浮世絵コレクションを活用し、今後増えることが予想される訪日外国人旅行者にも魅力を発信し、誘客していくことで新たなにぎわいを創出する。

第2章 川崎駅周辺地区の動向

本章では、浮世絵コレクションの効果的な活用立地や事業展開等の検討にあたり、旧東海道や川崎大師といった浮世絵との親和性の高いエリアであり、東京2020オリンピック・パラリンピックもふまえた国内外からの誘客に最も効果的なエリアと考えられる川崎駅周辺地区の商業機能、文化・交流機能、行政機能などの既存施設の把握や、川崎駅北口通路や川崎駅北口行政サービス施設(かわさききたテラス)などの回遊性やにぎわいの向上につながる施設整備の現状把握、そして総合計画をはじめとした、川崎の文化振興・観光振興・都市計画等に関する市の計画を把握し、これらの現状と課題から浮世絵コレクションの有効活用に向けた方向性を抽出します。

1. 川崎駅周辺地区の動向

(1) 商業機能の集積

JR 川崎駅西側にラゾーナ川崎プラザ、東側にはアトレ川崎、川崎ルフロン、DICE 川崎、川崎アゼリア、複合施設であるラチッタデッラ、川崎ウイング(京急川崎駅前ビル)など大規模な商業施設や宿泊施設が集積しており、市内外からの利用者が多くにぎわいの中心となっている。



ラゾーナ川崎

(2) 既存の文化・交流機能

「音楽のまち・かわさき」の中核的施設であるミュージザ川崎シンフォニーホールをはじめとし、ラゾーナ川崎プラザソル、川崎能楽堂ではそれぞれのジャンルにおいて良質な文化芸術の鑑賞機会を提供している。アートガーデンかわさきでは、絵画、彫刻、造形等をはじめとしたアートの発表の場として利用に供している。東海道かわさき宿交流館では、川崎宿に関する歴史・文化等の展示を行うとともに、まち歩きの拠点としても利用されている。

ジャンル	公共	民間
音楽	ミュージザ川崎シンフォニーホール	クラブチッタ
演劇・演芸等	ラゾーナ川崎プラザソル	
展示ギャラリー	アートガーデンかわさき	
伝統芸能	川崎能楽堂	
歴史・地域文化	東海道かわさき宿交流館	
図書館	川崎図書館	
映画		109 シネマズ川崎、TOHO シネマズ川崎、チネチッタ
産業体験		東芝未来科学館



ミュージザ川崎
シンフォニーホール



東海道
かわさき宿交流館

(3)川崎駅の立地優位性

川崎駅は、日本の玄関口である羽田空港から近く、鉄道(京急線)・バスでアクセスしやすい立地であり、また東海道新幹線や平成 39(2027)年に開通予定の中央新幹線(リニア)の始発・終着駅となる国内の交通の結節点である品川駅からも1駅でアクセスできるなど、国内外からの来訪者が訪れやすい立地にある。

(4)川崎駅周辺の回遊性の向上

平成 30(2018)年の「北口通路」の整備により、JR 川崎駅東西の往来の利便性の向上と、羽田直結の京急川崎駅やバスターミナルといった、交通の要所を含めた駅周辺の回遊性の向上が期待される。

(5)観光情報サービスの国際化に向けた整備

JR 川崎駅「北口通路」沿いに平成 30(2018)年 2 月に「川崎駅北口行政サービス施設(かわさききたテラス)」が運営を開始し、行政サービスの提供などに加え、観光情報・魅力の発信、訪日外国人旅行者にも対応可能なコンシェルジュサービスなどが行われている。

(6)直近 10 年での大規模イベントの開催

平成 31(2019)年に行われるラグビーワールドカップ、平成 35(2023)年には東海道川崎宿起立 400 年、平成 36(2024)年には川崎市の市制 100 周年、そして平成 39(2027)年には川崎大師開創 900 年など、直近 10 年の間に川崎市の歴史に大きく関わるイベントが多く予定されており、これらと連携した事業も検討していく必要がある。

参考：京急川崎駅と近接都市拠点・羽田空港の位置関係(京急川崎駅周辺地区まちづくり整備方針)



2. 本市の政策の方向性

本市の文化芸術振興、観光振興、都市計画等に関する基本構想・基本計画及び川崎駅周辺地区に関連する計画等を抽出するとともに、関連部分を抜粋し政策の方向性について検証します。

(1)「総合計画第2期実施計画」平成30(2018)年3月策定

■活力と魅力あふれる力強い都市づくり【基本政策4】

- 首都圏における、近隣都市の拠点との適切な連携のもとで、それぞれの地域特性を活かし、魅力にあふれ多くの人々が市内外から集まる広域的な拠点整備を推進するとともに、まちの成熟化に的確に対応し、誰もが安全で安心して暮らせる身近なまちづくりを進めます。
- それぞれの地域の歴史や文化に根ざした川崎らしさを大切にするとともに、スポーツや音楽などの地域資源を磨き上げ、それらが融合しながら変貌を遂げる国際都市川崎の多彩な魅力を発信します。こうしたことにより、都市ブランドを確立し、市民が愛着と誇りを持ち、一層多くの人々が集い賑わう好循環のまちづくりを進めます。

■スポーツ・文化芸術を振興する【政策4-8】

- 東京オリンピック・パラリンピックや市制100周年を契機として、スポーツ・文化芸術活動を通じて市民が感動を分かち合うとともに、こうした活動をさらに促進することで、自ら暮らすまちに抱く愛着と誇りを次世代に継承していきます。

■戦略的なシティプロモーション【政策4-9】

- 海外にも通用する抜群の都市ブランドを確立し、市民が愛着と誇りを持ち、誰もが訪れたい川崎をめざすため、地域資源を磨き上げるだけでなく、新たな地域資源の発掘・創出に取り組むとともに、市民や企業などと効果的なコラボレーションを図り、川崎の魅力が広く伝わる戦略的なシティプロモーションを推進します。

(2)「第2期文化芸術振興計画」平成26(2014)年3月策定

■文化芸術や地域の特性・資源を活かしたまちづくり【基本目標1】

- 音楽や映像、歴史や伝統文化など、地域資源を活かしたまちづくりを推進するとともに、これらの魅力を積極的に国内外に向けて発信し、市民の地域への愛情を増進するとともに都市イメージのさらなる向上を図ります。

■「川崎の文化」の国内外への発信【基本目標1／施策3】

- 魅力的な川崎の文化芸術を育てるとともに、国内外に向けて発信することにより、都市イメージの向上や観光客の誘致を図り、個性と魅力が輝くまちづくりを進めていきます。

(3)「新・かわさき観光振興プラン」平成28(2016)年2月策定

■「川崎駅周辺エリア」の国際的な観光拠点化【戦略3】

- ・川崎駅周辺の商業集積力や交通利便性など恵まれた立地条件を活かし、広域エリアが一体となって買物、エンターテインメント、文化芸術、スポーツ、飲食、宿泊など総合的な機能を強化し、国際的な観光拠点性を高めます。

(4)「川崎駅周辺総合整備計画」平成28(2016)年3月改定

■回遊性の強化【基本施策2】

- ・東海道など地域の歴史・文化資源を活かした、新たなまちの魅力を創造・発信するなど、地域への愛着を持てる魅力あるまちづくりを推進します。

■グローバル化への対応【基本施策6】

- ・羽田空港の国際化の進展や、平成32(2020)年東京オリンピック・パラリンピックの開催等による新たなビジネスチャンスの活用、地域資源や立地特性を活かした観光・商業の振興を図るため、国際化を見据えたまちづくりを推進します。

(5)「京急川崎駅周辺地区まちづくり整備方針」平成27(2015)年3月策定

■まちづくり基本方針

- ・羽田空港直結の立地特性を活かした国際性豊かなにぎわいのあるまちづくり

3. 川崎駅周辺地区の動向をふまえた課題

- 川崎駅周辺地区は、羽田空港からのアクセスの良さ、大規模な商業施設や宿泊施設の集積、川崎駅北口行政サービス施設(かわさききたテラス)での訪日外国人へのコンシェルジュサービス等、国内外からの観光客の誘客に高いポテンシャルを持っている。東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて世界中から日本への注目が高まっている中、川崎が国内外から多くの人が集まる国際的な文化都市として定着するためにも、立地優位性の高い川崎駅周辺地区において、川崎の文化を積極的に発信していく必要がある。
- 川崎の文化を継続的かつ効果的に発信するうえでは、いつ訪れても「川崎の文化」に触れられる常設的な機会の提供が最も望ましいが、現状、川崎駅周辺にはミュージア川崎シンフォニーホールをはじめとした実演芸術の鑑賞機会の提供を目的とした文化施設が多く、絵画などの芸術作品を鑑賞できる常設の展示施設が少ない。
- 地域の歴史・文化資源を活かした特徴ある新たな文化芸術施設を創出し、川崎駅周辺エリアとしてのまちの魅力の向上とにぎわいづくりに活用するとともに、市内にある既存の地域資源との連携により、川崎駅周辺エリアから市内全域へと回遊性を向上させる必要がある。

4. 川崎駅周辺地区の動向をふまえた活用の方向性

浮世絵作品等の活用に向けて、1～2で挙げた川崎駅周辺地区の動向及び現状をふまえた課題から、活用における4つの方向性を抽出しました。

方向性 1

川崎駅周辺地区の立地優位性を活かした文化芸術の発信

商業・サービス業、文化・交流など様々な機能が集積したにぎわいの中心であり、国内外からの立地優位性も高い川崎駅周辺地区から、川崎の文化芸術を積極的に発信し、国際的な文化都市としての認知度の向上を図る。

方向性 2

更なる回遊性を図るための戦略的な誘引

今後の増加が見込まれる来訪者に対し、何度も気軽に立ち寄ることができるよう、常に新たな文化・芸術体験・サービスを提供するなど、駅周辺へ戦略的に誘引することで、更なる回遊性の向上を図る。

方向性 3

鑑賞及び文化芸術体験の提供による文化的魅力の向上

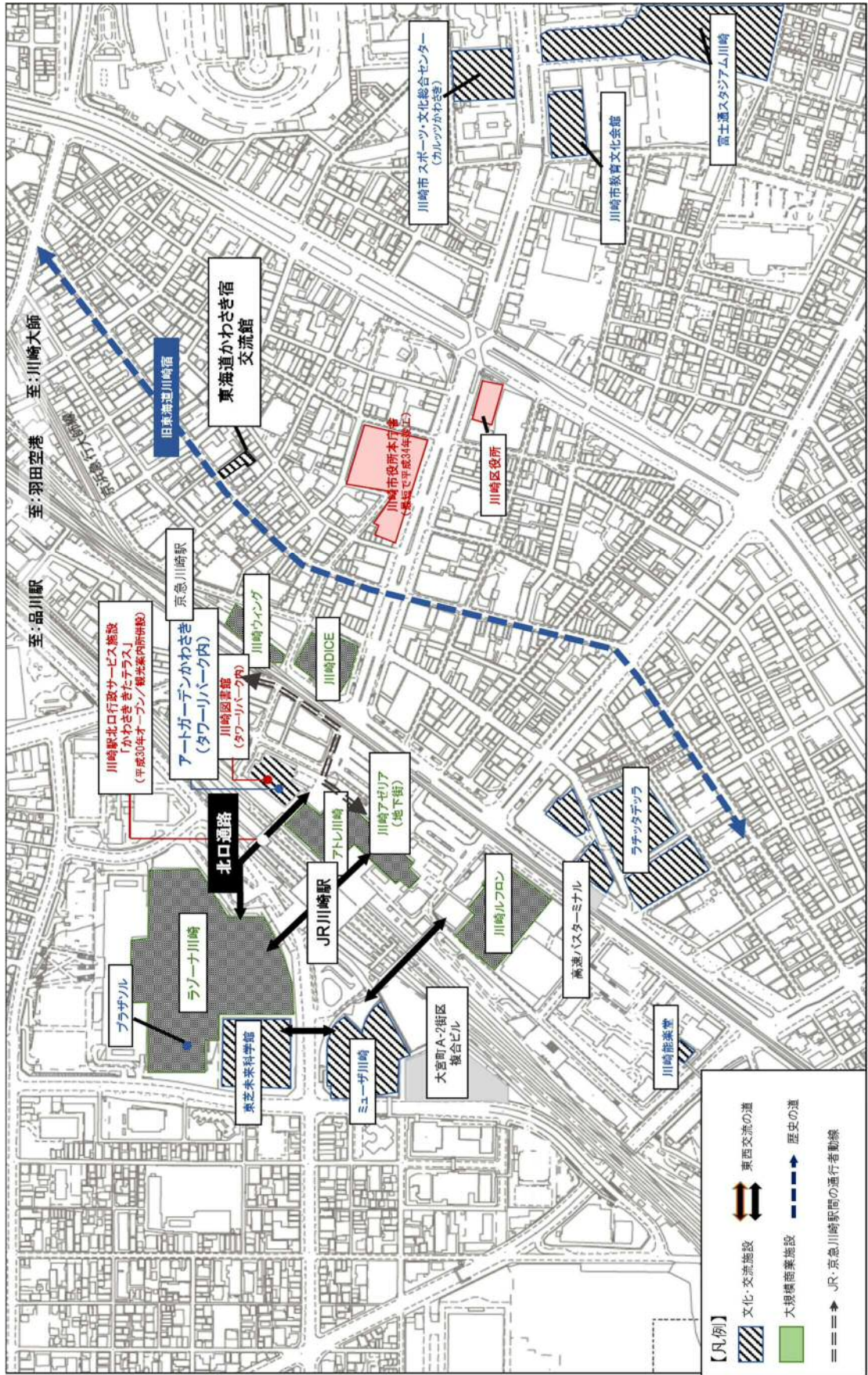
川崎駅周辺地区に、芸術作品の常設的な鑑賞機会を創出するとともに、体験などの新たなサービスを提供していくことで、市民の文化体験を通じた地域への愛着の醸成や文化・観光施設の充実による魅力向上につなげる。

方向性 4

観光交流機能の国際化と広域的なにぎわいの創出

東京 2020 オリンピック・パラリンピックを見据え、訪日外国人に向けた地域の魅力や「和」の文化発信など、羽田からの玄関口である川崎駅周辺地区の国際的な観光拠点化を推進し、広域的なにぎわいを創出する。

5. 川崎駅周辺地区の動向MAP



第3章 浮世絵等の活用に向けた基本方針

1. 検証に基づく浮世絵コレクションの活用についての考え方

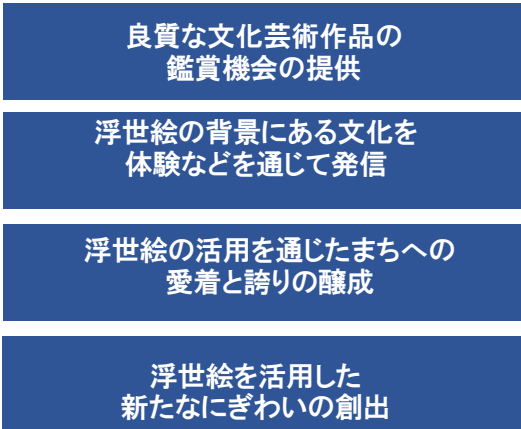
検証の結果、「公益社団法人川崎・砂子の里資料館」所有の浮世絵コレクションが東海道などを題材とした地元川崎にゆかりのある郷土性に満ちたものであること、国内外から高い評価を得ている世界的にも大変希少価値の高い作品を含んでいることから、本市の文化芸術の振興や地域の魅力向上に資する貴重な地域文化資源として高いポテンシャルを有することがわかりました。本市として、旧東海道、川崎大師などの歴史・文化資源をはじめとした市内にある様々な地域資源との回遊性を高め、新たな賑わいを創出し、本市の魅力を国内外に広く発信するとともに、多くの観光客を誘客する取組を進めるために、「公益社団法人川崎・砂子の里資料館」が所有する浮世絵コレクションを川崎駅周辺で活用する必要があると考えます。

2. 活用の視点

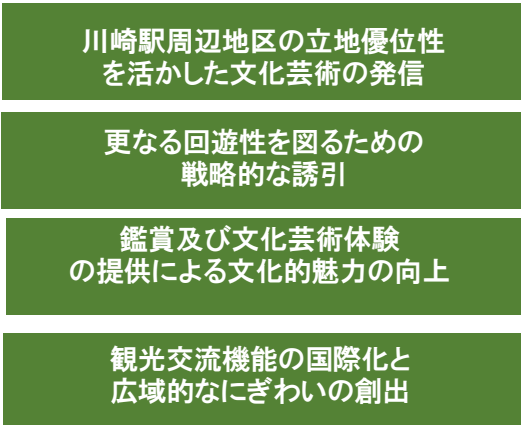
第1章、第2章で抽出した「浮世絵コレクションの特性」「川崎駅周辺地区の動向」、それぞれの活用の方向性から、活用の視点を整理しました。

◆活用の方向性

○浮世絵コレクションの特性



○川崎駅周辺地区の動向



◆活用の5つの視点

展示規模

展示規模は色彩の特徴を作品の近くで見せることと、高い頻度で展示を更新する必要性をふまえ、シリーズ作品が1回で展示可能なコンパクトな規模(55枚～60枚程度)で効果的・効率的に展示。

事業展開

浮世絵コレクションの展示だけでなく、「体感・体験」をはじめとした新たな交流を生む事業や、物販などといった多彩な事業を展開。

立地

羽田空港への玄関口のひとつである川崎駅周辺地区の中で、JR川崎駅・京急川崎駅・バスターミナルといった交通の要所に近接し、旧東海道からも近い立地。

ターゲット

川崎市民とともに、JR川崎駅・京急川崎駅を訪れる通勤、通学者、商業施設・宿泊施設等の利用者、新幹線や羽田空港を利用する国内外からの旅行者等をターゲットとして想定。

活用開始の時期

観光交流の国際化による訪日外国人観光客数の増加という目標もふまえ、東京2020オリンピック・パラリンピックを誘客・波及効果拡大の最大の機会と設定。

3. 活用コンセプト

“歴史×文化×芸術”による新しいエリアの創造

浮世絵という世界に誇る川崎ならではの
“歴史×文化×芸術”資源を活用し、様々な地域・世代をつなぐ
新たなにぎわい創出プロジェクト

4. 活用方針

(1)川崎の“歴史×文化×芸術”資源の活用

東海道川崎宿という、川崎区を代表する歴史と文化の「道」において、長年にわたり親しまれてきた川崎・砂子の里資料館に展示されてきた「公益社団法人川崎・砂子の里資料館」の浮世絵コレクションは、川崎を語るうえで大切な地域の歴史文化資源のひとつであり、鑑賞だけではなく、体験・体感といった有効活用を通じて、東海道や川崎大師地区などの周辺地域へと歴史文化の軸をつなげていきます。

(2)浮世絵を通じた川崎の歴史・文化の継承

芸術的価値だけではなく、現在の川崎を形成した、東海道に始まる街道筋の暮らしや文化を視覚的に伝える貴重な資料でもある浮世絵の活用を通じて、川崎の歴史・文化や、それを伝えた浮世絵とその背景にある日本の産業文化を、しっかりと後世に伝えることで、市民の地域への愛着と誇りを醸成します。

(3)他施設との連携による日本文化の魅力発信

「公益社団法人川崎・砂子の里資料館」の浮世絵コレクションだけでなく、市民ミュージアムをはじめとする他の施設との連携を通じて、川崎から浮世絵の魅力と日本の文化の魅力を国内外に発信し、文化都市としての魅力の向上を図ります。

(4)「川崎ならではの」の価値によるにぎわいの創出

商業、サービス、文化・交流、行政機能が集積し、多くの利用者によって市のにぎわいの中心となっていることに加え、羽田空港に近いという立地優位性がある川崎駅周辺地区で、国際的に知名度の高い「浮世絵」を活用することで、歴史と文化と芸術とを融合させた「川崎ならではの」の価値を生み出し、市民、国内旅行者に加え、東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けて増える訪日外国人旅行者も誘客し、新たなにぎわいを創出します。

5. 活用候補地に関する考察

活用候補地については、2で整理した「活用の視点」(規模・事業・立地・ターゲット・活用時期)から、多様な施設や機能が集積した川崎駅周辺エリアにおいて、建物を新築するのではなく、本市が保有する既存施設での活用を基本に検討しました。

その結果、川崎駅前タワー・リパーク3階の「アートガーデンかわさき」(以下、「アートガーデン」と言う。)の一部である「公益財団法人川崎市文化財団(以下、「文化財団」と言う。)事務室跡スペース※」(普通財産)と、旧東海道沿いに立地する「東海道かわさき宿交流館3階展示室」(行政財産)の2つの施設を候補地として比較・検討しました。

※文化財団事務室跡スペース

「音楽のまち・かわさき」推進協議会と文化財団の事務局機能の統合により、現在の文化財団事務局は平成30(2018)年6月に移転を予定。

活用の視点	川崎駅前タワー・リパーク3階「アートガーデンかわさき」 文化財団事務室跡スペース 普通財産	適否	東海道かわさき宿交流館 3階展示室 行政財産/公の施設(指定管理)	適否
① 展示規模	<ul style="list-style-type: none"> ・150㎡のうち展示可能なスペースは100㎡程度 ・壁かけ55枚～60枚に加え、覗きケースやハイケースでの作品展示スペースを確保することができる。 ・3～4週間の頻度で展示替えを要する浮世絵作品の特性に合った規模であり、常設ギャラリーとして展開可能。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・展示可能なスペースは50㎡程度 ・パネルで仕切れば壁かけで55枚の展示は不可能ではないものの、鑑賞者の十分な動線やケース展示のスペースは確保できず常設ギャラリーには適さない。 	△
② 事業展開	<ul style="list-style-type: none"> ・作品展示以外の「体験、体感」といった事業スペースが不足しているが、展示スペース内のレイアウト変更やアートガーデンの第1～3展示室を活用すれば、一時的な事業展開は可能。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・常設ギャラリー化した場合には従来行っている館の企画事業ができなくなるため、既存の指定管理業務を整理する必要がある。 ・3階展示室と併せて4階会議室を活用すれば、「体験、体感」などの一時的な事業展開は可能 	△
③ 立地	<ul style="list-style-type: none"> ・JR川崎駅北口直結による利便性 ・観光案内所(かわさききたテラス)との連携による誘客 ・旧東海道への新たなアプローチ確立 ・アートガーデンの利用団体・来場者との波及的誘客効果 ・東海道かわさき宿交流館との回遊性への期待 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・浮世絵と親和性の高い旧東海道沿いにて事業展開することができる一方で、駅周辺のにぎわいの中心からは離れた立地となる。 	○
④ ターゲット	<ul style="list-style-type: none"> ・交通の要所に至近であり、駅利用者、観光客、羽田空港を利用する訪日外国人をターゲットとすることができる。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・駅からのアクセスを考慮すると、観光客や訪日外国人をターゲットにするためには工夫が必要 	○
⑤ 活用開始の時期	<ul style="list-style-type: none"> ・最短で平成31年中に活用開始 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・有料での常設展示の実施には設置条例の改正や指定管理者との調整が必要となるため、現指定期間終了後の平成35年度が基本となる。 	×
参考 (想定される初期投資経費等)	全体で150㎡あるアートガーデンに比べ、展示可能スペース50㎡のみの東海道かわさき宿交流館における設備改修、展示制作の整備については安価となる事が想定される。			

6. 活用候補地の比較・検討結果

はじめに、「東海道かわさき宿交流館3階展示室」は、展示規模が50㎡程度で、かつて東海道シリーズ作品55枚を展示した実績はありますが、観覧者の十分な動線や、覗きケースや掛け軸タイプの作品を展示するハイケースを設置するほどのスペースが確保できないため、常設ギャラリーには適さない環境です。

また、従来、館として行っている様々な企画事業ができなくなることから、指定管理業務を整理する必要に加え、有料とするためには、設置条例の改正や指定管理者との調整が必要になるため、基本的には、現指定期間終了後の平成35年が活用の開始時期となります。

一方、「文化財団事務室跡スペース」は、150㎡程度あり、そのうち100㎡程度の作品展示スペース

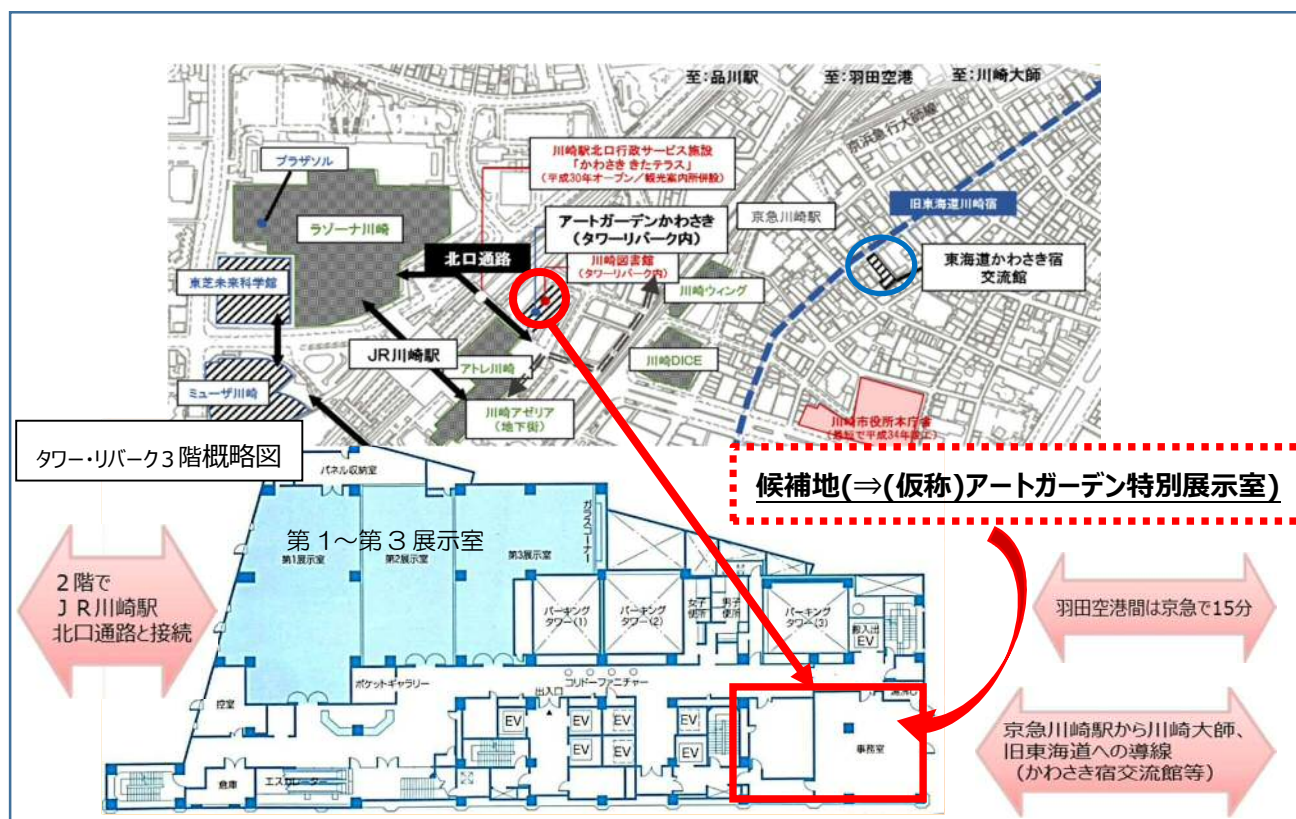
スの確保が可能です。また、同フロアにある既存展示室との連携企画事業の開催や相互の波及的な誘客効果にも期待できます(浮世絵と親和性の高い東海道かわさき宿交流館との連携も可能)。立地は、JR川崎駅と京急川崎駅の間に位置しており、新たな観光案内所のあるJR川崎駅北口通路と川崎駅前タワー・リパークとの直結や羽田空港からのインバウンド誘客、市内における他の地域資源への回遊性の向上なども期待できる点で、非常に優れています。

以上のことから、両施設を比較・検討した結果、活用の候補地を川崎駅前タワー・リパーク3階にある「文化財団事務室跡スペース」とします。

また、参考として、「文化財団事務室跡スペース」が計 150 m²に比べ、「東海道かわさき宿交流館 3 階展示室」については 50 m²程度なため設備改修、展示制作の整備などの初期投資経費について安価になることが想定されます。

なお、今後、コストについては、運営費の詳細も含めて、精査・検討していきます。

候補地	<p>川崎駅前タワー・リパーク3階(現状:普通財産) 文化財団事務室跡スペース※100 m²+会議室跡 50 m²=計 150 m² ※「音楽のまち・かわさき」推進協議会の事務局機能を文化財団に集約することに伴い、文化財団事務室は移転(平成 30(2018)年 6 月予定)</p>
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ○JR川崎駅北口駅直結による利便性 ○観光案内所(かわさき きたテラス)との連携による誘客・回遊 ○京急川崎駅との近接性を活かしたインバウンド誘客 (殿町地区や羽田空港連絡道路経由での来訪も視野) ○旧東海道への新たなアプローチの確立 ○アートガーデン展示室や東海道かわさき宿交流館との波及的誘客効果や連携企画の開催 ○市所有施設の改装による活用 ○文化財団移転後のスペースの有効活用



7. 施設運営形態等

(1) 運営形態について

「アートガーデンかわさき」は、市の普通財産として公益財団法人川崎市文化財団(以下「文化財団」という。)に貸付け、同財団では、第1～第3展示室の管理業務を行うとともに、事務室及び会議室として使用しています。これは、文化財団が自主的に独自の企画展を開催したり、文化活動を支える市民の交流、創作活動の発表等の拠点としての有料貸出、即売ができるようにするためです。

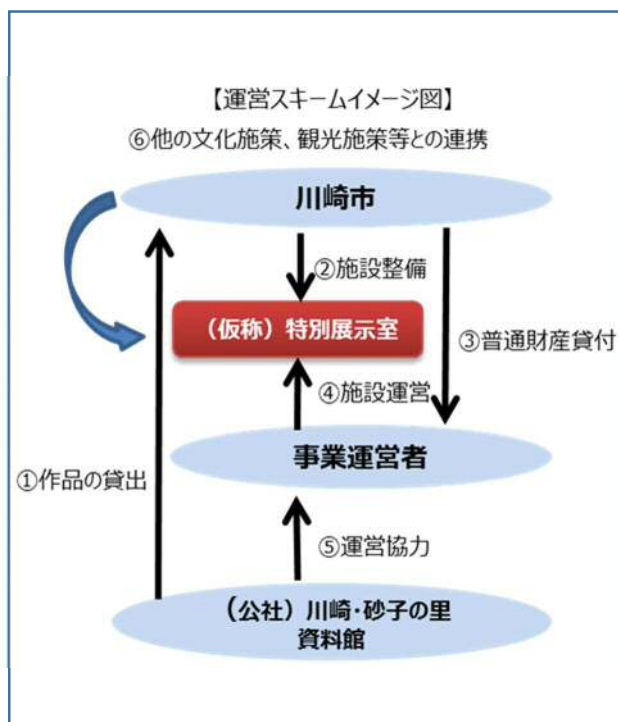
また市の文化行政の一翼を担うことを目的に設立された文化財団に対し、その文化振興に資する環境づくりを行うことは財産活用の見地からも妥当であると判断したものです。

基本方針策定にあたり、川崎駅周辺の既存の文化施設の中で、「活用の視点」から検討した結果、アートガーデンかわさき事務室跡が候補地となり、当該候補地において、これまでと同様に上記のような運用が適していると考えられることから、引き続き普通財産として貸付による運営について検討します。

○川崎市は、市の普通財産であるアートガーデンに、(仮称)特別展示室を整備し、運営主体となる事業者へ貸し付けます。

○「公益社団法人川崎・砂子の里資料館」は、所有する浮世絵コレクションを川崎市に無償で貸し出すとともに、展示企画や図録の作製等に協力します。

○運営事業者は、特別展示室の管理・運営を行います。



(2) 事業者について

市の文化行政の一翼を担うことを目的に設立された文化財団に対し、本件浮世絵等の活用を通じたさらなる文化振興機能の強化を推進するため、事業者については、文化財団を視野に検討し、今後調整を図っていくこととします。

また、文化財団については、次の理由から市における文化振興施策を推進する上で重要な役割を果たし、文化事業や施設運営に精通していると考えます。

① 文化財団の設置目的と施設管理運営のノウハウ

文化財団は、市民の文化活動の振興、川崎市における新しい市民文化の創造を設置目的としており、歴史文化の発掘及び顕彰、芸術文化の発掘及び鑑賞に関する事業の展開、文化施設の管理及び運営などを主たる事業としています。特に施設の管理運営については、文化芸術の多岐にわたる分野において、専門機関や文化団体等との連携事業を遂行している点で、十分なマネジメント能力を有しています。

②文化財団の役割と機能強化

市が文化振興に関する政策立案や環境づくりを担い、文化財団は市と連携した広範な事業を展開することで、市を補完・代替し、効果的かつ効率的に文化振興を図っていくという適切な役割を果たすとともに、その取組の一環として新規事業を担うことは、文化財団のスキルアップやノウハウの蓄積など、機能強化を図る好機となり、さらなる文化振興の推進が期待できます。

③アートガーデンの一体的な運営

文化財団は、既存のアートガーデン第1～第3展示室を管理運営しており、「(仮称)特別展示室」と併せて運営することで、人員配置体制のほか、誘客のための広報や事業連携など、スケールメリットを生かした効率的な運営が可能になります。

④安定した市民サービスの提供

文化財団は、市が出資する公益性の高い出資団体なため、市民等への安定的、かつ、継続的なサービスの提供が可能になります。

8. 想定される経費の項目

①初期経費項目については開設準備、展示制作に加えて内装、空調、照明、消火の設備改修が必要となります。

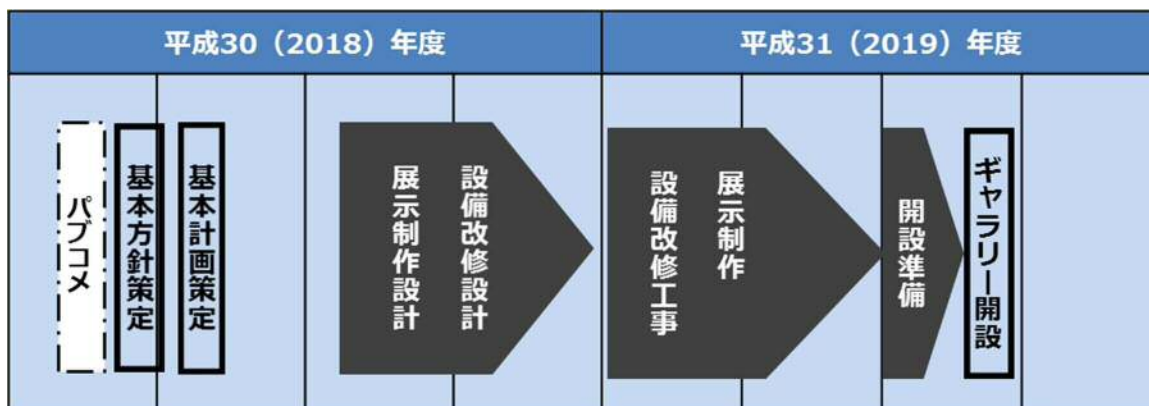
※ 消火方法は調整中

②事業運営費収支項目

これらの収支項目を基に、今後、運営費の詳細について、精査・検討していきます。

収入項目	項目内容
入館料	入館料×目標入館者数×有料入館者割合
グッズ販売収益等	図録、関連グッズ
協賛・協力等	未定
市補助金	未定
支出項目	項目内容
人件費	専門学芸員、受付、監視等
事業費	広報、図録作製、額装、作品運搬、保険等
施設費	施設賃借料、光熱水費等

9. 今後の想定スケジュール



資料編

1. 展示計画(案)

(1) 6つの活用の展開方針(必要となる事業活動)

1 誘引・回遊 (展示①)

施設に誘引し、惹きつける導入的な仕組みを構築します。また川崎駅界隈の回遊につなげる仕組みを検討します。



2 鑑賞 <実物資料> (展示②)

実際の資料を展示公開し、浮世絵作品に触れる場を提供します。



3 理解 <知識・学び> (展示③)

「浮世絵」について分かりやすく発信します。制作過程や技法、道具、日本文化とのつながりや世界に与えた影響などを分かりやすく伝え、様々な来館者の知的欲求に応えます。



4 体験 (展示④)

浮世絵の鑑賞と関係する知識や学びを踏まえ、技法や制作工程を体験できる場を提供します。制作した作品は持ち帰って SNS などの情報発信を通じて浮世絵に普段触れない人たちにも周知してもらいます。



5 管理・サービス

施設の管理を行うとともに、「体験」などの各種事業や物販サービスのほか、施設や浮世絵の PR に向けた広報や他施設との連携も行います。



6 資料保管 展示準備

資料の一時保管・展示準備環境の構築と共に、市民ミュージアムなどの既存施設と連携した事業も検討します。



(2) 展示ストーリー案



(3) 展示計画にあたっての条件整理

展示計画は、以下の条件を空間的にプロットし、浮世絵作品大判サイズを 55 枚以上と、額装などの展示準備スペースと備品倉庫の設置などが可能であるか検証しました。

■計画にあたっての条件

- ・施設規模 延床面積は 150 m²程度想定とする。
- ・浮世絵作品は大判サイズが1列で最低 55 枚以上展示できるようにする。
- ・浮世絵作品の展示はピクチャーレールからの吊展示でなく、壁に直接掛けて展示する。
- ・掛け軸、巻物資料を展示できるように覗きケース、ハイケースを用意する。
(ケース仕様は設計時に検討)
- ・バックヤードは額装スペース、額の保管スペースを必要とする。
- ・「公益社団法人川崎・砂子の里資料館」所有の浮世絵コレクションは全部で3000 点程度ある。
- ・川崎に縁のある浮世絵作品は 100 点程度ある。

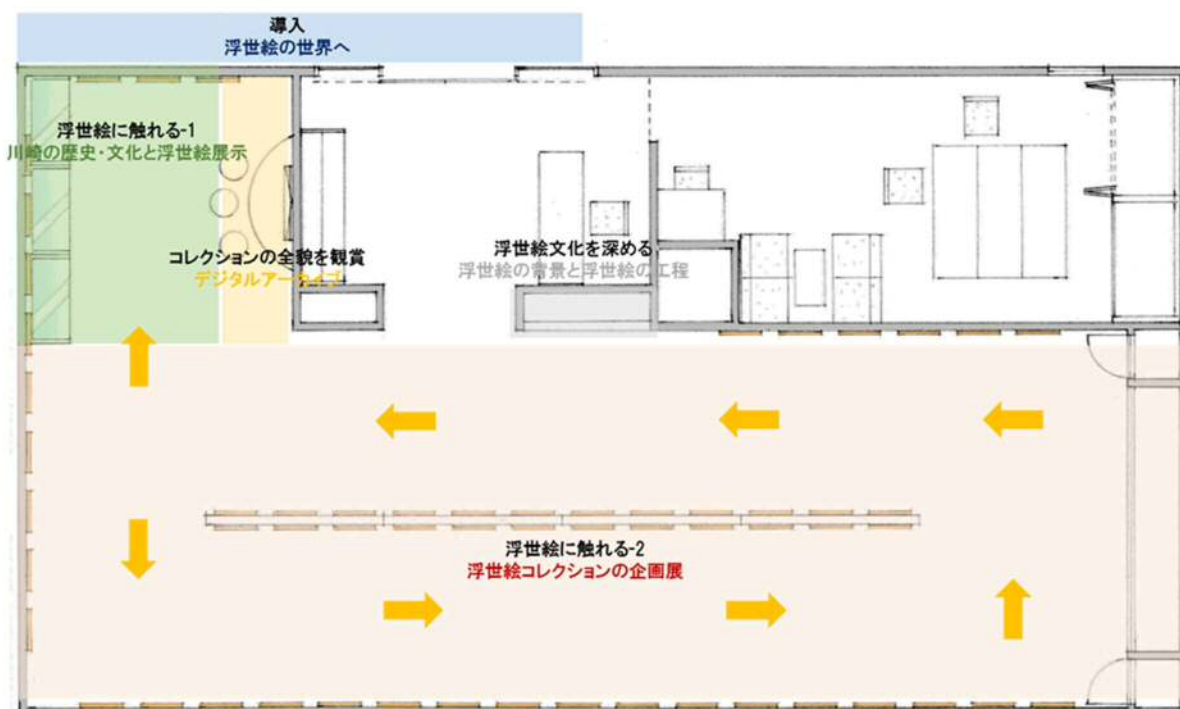
(4) 空間イメージ

空間イメージは以下の点に配慮し検討を進めます。

- ・シンプルな空間で、色彩豊かな浮世絵の特徴が活かされるものとする。
- ・現代的なミュージアムの空間を想定する。

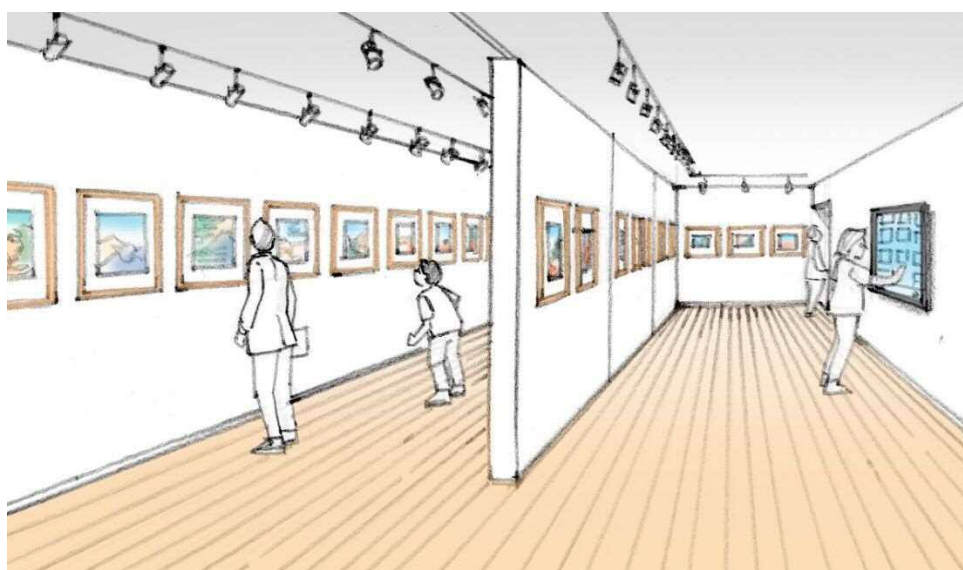
(5)ゾーニング及び動線イメージ

本平面計画では、計画にあたっての条件の中でも一番重要な条件である、額装された浮世絵作品を 55 枚以上展示できる計画としています。また動線は、一筆書きで周れるようなシンプルな動線を基本とする配置としました。中心の壁は可動壁となっており、今後の運営の中で、様々なテーマの浮世絵展示に対応出来るようにしています。浮世絵体験なども展示室内のレイアウトを変更することで、現在の施設規模の中で、様々な体験ができるよう検討をすすめます。

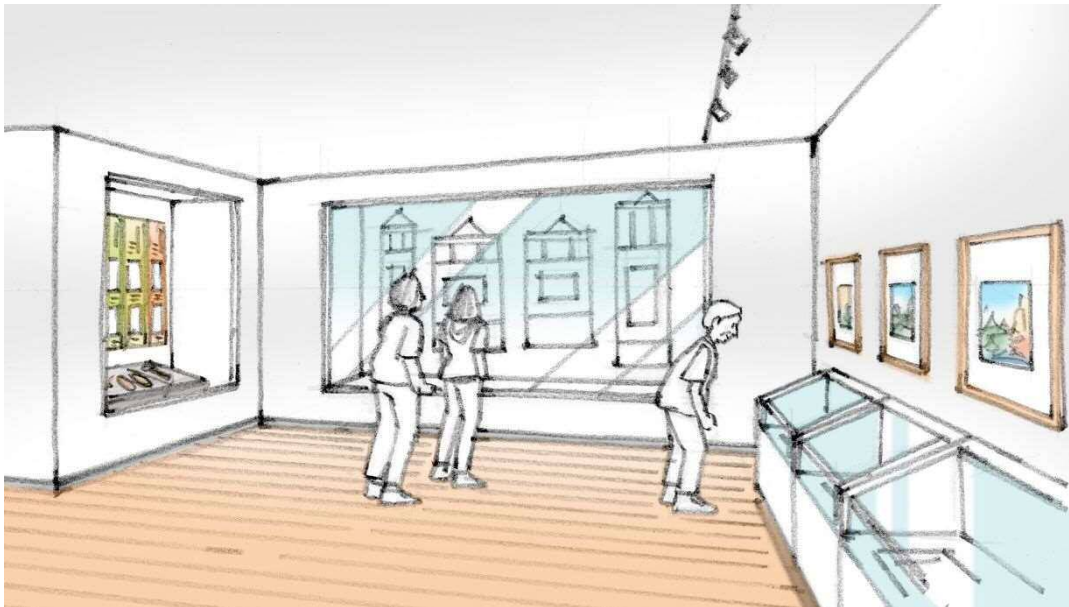


■アイレベルイメージ

① 壁掛け展示イメージ



② ガラスケース展示イメージ



2. 浮世絵等の有効活用に向けたあり方検討に関する学識者ヒアリング

(1) 政策研究大学院大学 垣内恵美子 教授

【専門分野】: 文化政策・都市計画等

【ヒアリング実施日】: 2017年10月3日

【場所】: 政策研究大学院大学

【ヒアリング概要】

① 浮世絵(コレクション)の評価について

- ・2017年4月25日にニューヨークで行われたクリスティーズのオークションでは、葛飾北斎の「神奈川沖浪裏」の浮世絵版画が94万3500ドル(約1億380万円)で落札されており、日本の浮世絵に対する海外からの評価は高い。
- ・浮世絵コレクションの中でも北斎漫画は人気が高く、多くの展示施設から貸し出しの申し出がある。また、葛飾北斎の「神奈川沖浪裏」は数多く出回っているが、写楽の浮世絵は貴重である。

② 浮世絵コレクションの展示・体験について

- ・「公益社団法人川崎・砂子の里資料館」が所有する浮世絵作品が種類・数ともに充実しているので、女性を描いた作品や、当時の産業を題材にした作品、季節に合わせた作品など、様々なテーマを設定して浮世絵の展示が可能である点は特徴になると思う。
- ・浮世絵は近くで見て、色の塗り分けや色彩の魅力を体感するのが良いため、展示規模は小さくても良い。浮世絵の魅力は繊細な原画を木版に落とし込む「彫師」の技術と、魅力的な色彩や繊細な塗り分けを出す「摺師」である。特に「彫り」に関しては、1mmの中に3本の毛を掘る毛彫りの技術力の高さは評価が高い。そのため、浮世絵の制作工程についての展示や、その制作の中で使用する道具の展示や体験もできると、より浮世絵の魅力が伝わる。
- ・東海道かわさき宿交流館では、お座敷遊び体験などの和芸に関する体験イベントを開催している。また、浮世絵「横浜絵」を展示する企画展を「公益社団法人川崎・砂子の里資料館」と連携して、開催している。浮世絵展示施設では、東海道かわさき宿交流館と連携して和芸に関する体験イベントに浮世絵の内容を絡めて展開しても面白いと思う。
- ・回遊機能を検討するのであれば、東海道川崎宿に関する浮世絵の鑑賞からスタートして、旧東海道川崎宿のまち歩きへとつなげられると良い。
- ・北斎漫画を活用した展開案として、市民ミュージアム、藤子・F・不二雄ミュージアムと「漫画(マンガ)」というテーマで連携して、誰もが親しめる川崎の文化のひとつとして展開していくのもいいと思う。

③ 運営について

- ・施設の運営には、浮世絵の専門的な知識を有する学芸員の配置が必要である。
- ・入館料に関しては、無料に設定した方が来館者は増えると考えられるので、収益等を考慮するのであれば、物販などのサービスでの収益確保を検討したほうが良い。
- ・浮世絵の展示だけでは、多くの人を呼ぶのは難しいので、展示機能に加えてカフェなどの共用機能も取り入れたほうが良い。
- ・浮世絵の保存・管理については、ひとつひとつの作品の大きさは大きいものではないので、保管スベ

ースもコンパクトなものでよく、保存環境については、どのような浮世絵作品を借りてくるかにもよるが、基本的には燻蒸をして、紫外線を避け、適度な温湿度で管理すれば良い。

④その他

- ・施設の立地は、近くを通った人から目に付きやすく、入りやすい立地がいいと思う。
- ・「公益社団法人川崎・砂子の里資料館」の浮世絵コレクションの活用の条件の1つである、展示使用の際の貸し出しという条件を、新しい施設での活用する場合は優先的に貸し出すという条件にできたら展示の幅が広がると思う。

以上

(2)横浜商科大学 穴戸学 教授

【専門分野】: 観光学等

【ヒアリング実施日】: 2017年10月4日

【場所】: 横浜商科大学

【ヒアリング概要】

①観光に向けた浮世絵作品の活用方針について

- ・浮世絵コレクションの活用のコンセプトとして挙げている、「歴史×文化×芸術」は良いキーワードであると思う。
- ・浮世絵の展示を川崎の1つの観光ポイントとするなら、集客が見込めるようなメジャーな作品や、来館者が楽しめる体験などが必要だと思う。
- ・浮世絵展示で観光客の誘客をする場合、浮世絵の展示数が少ないと、観光客は満足しない可能性がある。観光客の満足度を上げるためには、その時展示していない浮世絵のデジタルコンテンツをタッチモニターなどで展示し、常時見られる浮世絵の作品数を増やすことや、浮世絵作品以外の歴史や制作工程といった展示も充実させた方が良い。
- ・一般的に、外国人観光客は、京都のような「和」そのものの雰囲気や、広くアート作品の鑑賞をしたいというニーズがあり、浮世絵に限定した需要は少ないと考えられる。ヨーロッパ圏の外国人は特にアートに興味がある人が多く、(アートでPRをしている)直島など瀬戸内エリアは、多くの外国人観光客(特にヨーロッパ圏)が訪れている。そのため、浮世絵の展示に加えて、日本の文化芸術についての紹介や、アートやデザイン要素を取り入れた展示手法を検討することも効果的である。
- ・回遊拠点としての機能を考えるなら、来館者が周辺地域などに行きたくするようなストーリーを設定する必要がある。また、「川崎」というテーマに絞って浮世絵を展示しても、外国人観光客はわからないため、東海道五十三次など海外にも知られている作品から、広く日本の歴史文化と芸術を絡めた展示をして、全国的な回遊も含めて検討したほうが良い。
- ・体験機能を入れた際に、どのような規模や内容の体験を実施するかについて検討する必要がある。

②観光に向けた浮世絵作品の活用方針について

- ・外国人観光客の利用を想定した場合、無料 Wi-Fi が使えた方が良い。
- ・利用客を多く見込みたいなら、施設の入館料は有料ではなく無料にした方が良く、その際に物販などで収益確保を行うとともに、物販でのグッズ展開などは川崎ならではのものなどを検討する必要がある。
- ・外国人観光客を誘客するためには、空港や、インターネット上などでの事前の広報・PRによって、訪日前に川崎に行きたいと思わせることが必要である。
- ・川崎駅周辺は羽田からも近く、ホテルなどの宿泊施設も多いため、外国人が宿泊拠点として利用することが期待できる。宿泊で滞在する場合は、日中は他の観光地へと出かけていることが多いため、ホテル周辺にいる人をターゲットに朝早く、もしくは夜の時間帯に施設を開館すれば、誘客が期待できる。

以上

(3)神奈川県立歴史博物館 桑山童奈 主任学芸員(浮世絵に関する調査研究・展示を担当)

【ヒアリング実施日】:2017年10月11日

【場所】:神奈川県立歴史博物館事務室

【ヒアリング概要】

①浮世絵作品の展示について

- ・一般論として錦絵など美術品は早い時代に収集する方が状態の良いものを収集できるが、「公益社団法人川崎・砂子の里資料館」の浮世絵コレクションは、他の著名な浮世絵コレクションと比較して収集時期が若干遅い。加えて、「公益社団法人川崎・砂子の里資料館」の浮世絵コレクションは、他館への貸し出しが非常に多く、長期間の展示による作品への影響が懸念される。
- ・川崎・砂子の里資料館の浮世絵の展示は、壁面に額をかけるものであったが、額と額の間が狭く窮屈な印象だったため、新たな施設で展示する際には、ある程度作品と作品の空間をあけて展示したほうが良い。また、そのことで1回の展覧会における展示作品数を減らすことができる。
- ・神奈川県立歴史博物館の浮世絵の常設展示は、浮世絵の資料の特性を考慮して、6週間程度の周期で作品を入れ替えており、特別展は4週間と展示期間を定めて、資料保護に留意している。
- ・浮世絵を常設展示する施設を設置することで、川崎を訪れればいつでも浮世絵が見られるといった、川崎の新たな価値を生み出せる。また、「公益社団法人川崎・砂子の里資料館」の浮世絵のみで常設展示を行う場合は、展示する作品数を少なくし、様々なテーマを設けて1ヶ月ごとにローテーションしながら展示していく方が、浮世絵の劣化を最小限に抑えられ、かつ来館者を飽きさせない展示が出来る。
- ・東海道かわさき宿交流館と展示内容が重複する可能性があるが、川崎や旧東海道川崎宿の歴史文化の展示もし、浮世絵の背景や当時の歴史文化についてもしっかり伝えることで、浮世絵をより楽しめると思う。

- ・「公益社団法人川崎・砂子の里資料館」の浮世絵コレクションは、著名な作品を含む豊富なコレクションに加え、積極的な貸し出しによる企画展「川崎・砂子の里資料館所蔵作品展」の開催から、国内・海外でのネームバリューが高いため、浮世絵コレクションが展示された場合には一定の集客が期待できる。参考として、神奈川県立歴史博物館の年間の来館者数は、入館料無料のフリーゾーンで 14 万人程度、浮世絵に関する特別展の開催時(会期は約1か月)には 1 万人程度であった。
- ・浮世絵の展示環境は、24 時間の安定した温湿度管理と、調光可能な LED 照明などの資料に影響の少ない照明設備下での展示が求められる。神奈川県立歴史博物館では、現在エアタイトのウォールケースで浮世絵を展示しているが、ウォールケースだと浮世絵を近くで見られず、浮世絵の摺の技法や色彩の魅力をしっかりと伝えづらいため、新たな施設で浮世絵を展示する際は、展示室内の空調・照明環境に留意し、額縁に浮世絵を入れて、近くで見られるようにした方が良い。

②運営について

- ・新たに設置する施設で浮世絵作品を他館から継続的に借用し展示するためには、それに対応できるだけの体制を整える必要がある。また、市の事業として継続していくためには、浮世絵の専門的知識を有する学芸員に加えて活動やイベントを担当するスタッフや、施設の管理担当するスタッフをしっかりと確保する必要がある。例として年間 10 本のテーマで展示を運営していくのであれば、学芸員は 2 人以上必要であると考えられる。
 - ・浮世絵の摺体験展示は藤沢市の藤澤浮世絵館や、墨田区のすみだ北斎美術館、静岡市の東海海道広重美術館などで実施しており、子どもを中心に人気があるため、浮世絵をより楽しむためには、あった方が良くと思う。しかし、摺体験には、水場が必要となるため、体験場所及び体験を管理するスタッフなどの運営方法については、検討が必要である。
 - ・市民ミュージアムも浮世絵や版画作品を所有しているので、市民ミュージアムで展示しきれない作品を、新しい施設で展示したりしながら相互連携を図っていくとは双方に効果的である。
- 「公益社団法人川崎・砂子の里資料館」の浮世絵コレクションについて、施設を新規に整備するのであれば、浮世絵作品を借用して展示するだけでなく、既存の川崎市内の施設との連携も視野に入れて、効果的に活用していく必要がある。

以上

3. 川崎市内の文化芸術機能及び類似事例

浮世絵作品等の有効活用方針の検討に向けて、市民ミュージアムや岡本太郎美術館の市内類似施設や、川崎駅周辺地区の文化・交流施設、そして国内の類似事例について調査し、検討のための参考としました。

(1)川崎市内の主な文化芸術機能

施設名	開館年	延床面積	設立主体	運営主体
川崎市 市民ミュージアム (中原区)	昭和 63 年	19,542 m ²	川崎市	アクティオ・東急コミュニティー 共同事業体
川崎市 岡本太郎美術館 (多摩区)	平成 11 年	4,993 m ²	川崎市	生田緑地運営共同事業体
東海道かわさき宿 交流館 (川崎区)	平成 25 年	1,013 m ²	川崎市	川崎市文化財団・ 川崎市観光協会グループ
川崎能楽堂 (川崎区)	昭和 61 年	544 m ²	川崎市	川崎市文化財団
ミュザ川崎 シンフォニーホール (幸区)	平成 16 年	17,244 m ²	川崎市	川崎市文化財団グループ
アートガーデン かわさき (川崎区)	平成 6 年	512 m ²	川崎市	川崎市文化財団
ラゾーナ川崎 プラザソル (幸区)	平成 18 年	594.33 m ²	川崎市	川崎市文化財団

施設概要	入館料	選定のポイント
<p>川崎の成り立ちと歩みを考古、歴史、民俗などの豊富な資料で紹介する博物館と、川崎ゆかりの作品のみならず、ポスター、写真、漫画、映画、ビデオなど、近現代の表現を中心に紹介する美術館との複合文化施設である。「都市と人間」という基本テーマに基づき、常設・企画展や映画の定期上映を始めとして、講座やワークショップ、各種イベントなど様々な事業を展開。</p>	<p>企画展ごとに異なる ※常設展は無料</p>	<p>川崎市内の文化・交流施設 浮世絵作品の収蔵・展示</p>
<p>川崎市高津区二子に生まれた芸術家岡本太郎氏から、その主な作品及び資料約 1,800 点が川崎市に寄贈されたことを契機に建設され、平成 11 年に生田緑地に開館。常設展示室は、岡本太郎芸術を肌で感じ、体感できるような展示空間となっている。企画展示室では、岡本太郎及び関連した近現代美術の、多彩なテーマによる展覧会を年 4 回開催している。</p>	<p>企画展ごとに異なる</p>	<p>川崎市内の文化・交流施設 美術品の収蔵・展示</p>
<p>川崎宿の歴史・文化を学び、それを後世に伝え、地域活動・地域交流の拠点となることを目指した施設。1階には休憩室を設け街歩きスポットとしても活用されている。2～3階は「川崎宿」の街並みや川崎市の歴史、文化を映像と模型を組み合わせた展示などから追体験ができる。4階の集会室・談話室は地域や市民相互の交流などの場として有料で貸出しをしている。</p>	<p>無料</p>	<p>川崎駅周辺地区 文化・交流施設 回遊機能</p>
<p>長い歴史と独特の様式を持つ能舞台の雰囲気や演者の息づかいを間近に味わうことができ、鑑賞だけでなく能楽教室の開催の他、仕舞や邦楽などの稽古、発表会等幅広く利用が出来る。</p>	<p>公演等により異なる</p>	<p>川崎駅周辺地区 文化・交流施設</p>
<p>「音楽のまち・かわさき」のシンボルとして誕生した音楽ホールで、世界のマエストロたちが認めた最高の音響空間を誇る。1997 の客席がステージを 360 度取り囲むヴァンヤード形式のステージが、演奏者と聴衆との一体感を生み出す。</p>	<p>公演等により異なる</p>	<p>川崎駅周辺地区 文化・交流施設</p>
<p>川崎駅から徒歩 3 分という交通アクセス抜群の駅前ギャラリー。展示できるアートは、絵画、書、彫刻、工芸、写真、生け花などジャンルを問わず、日ごろのアートワークを思いのままにディスプレイでき、個展はもちろんグループ展にも最適な空間。</p>	<p>無料</p>	<p>川崎駅周辺地区 文化・交流施設</p>
<p>音楽、演劇、ダンス、落語、講座など、さまざまなイベントに対応できる多目的ホール。可動式の客席(200 席)を収納すれば、パーティーや展示会の会場にも早変わりし、プロ・アマを問わず、多彩な文化・情報発信が行われている。</p>	<p>公演等により異なる</p>	<p>川崎駅周辺地区 文化・交流施設</p>

(2)類似事例

施設名	所在地	開館年(平成)	設立主体	運営主体	延床面積
太田記念美術館	東京都渋谷区	昭和55年	公益財団法人 太田記念美術館	直営	-
茂木本家美術館	千葉県野田市	平成18年	公益財団法人 茂木本家美術館	直営	-
信州小布施 北斎館	長野県小布施町	平成27年(RN時)	一般財団法人 北斎館	直営	1,390㎡
すみだ北斎美術館	東京都千代田区	平成28年	墨田区	指定管理 (墨田区文化振興財団・ 丹青社共同企業体理)	3,279m ²
藤澤浮世絵館	神奈川県藤沢市	平成28年	藤沢市	直営	845.33㎡
日本浮世絵博物館	長野県松本市	昭和57年	一般財団法人日本浮世絵博物館	直営	891㎡
東京ステーション ギャラリー	東京都千代田区	平成24年(RN時)	東日本鉄道文化財団	直営	2,498m ²
江戸東京博物館	東京都墨田区	平成27年(RN時)	東京都	指定管理 公益財団法人 東京都歴史文化財団	48,000㎡
お茶ナビゲート	東京都千代田区	平成25年	駿河台開発 特定目的会社	委託管理	150㎡

浮世絵展示・駅周辺施設・回遊機能に関する類似事例

施設概要	体験	入館料			選定ポイント
		大人	高校生	中学生以下	
太田記念美術館は、かつて東邦生命相互保険会社の社長を務めていた五代太田清藏(1893～1977)が蒐集した浮世絵コレクションを、広く大勢の方々に公開するために設立された美術館である。	なし (講座、企画展映像上映のみ)	企画展 700円 特別展 1000円	企画展 500円 特別展 700円	無料	浮世絵の展示
近世から現代まで、日本の美術を幅広く蒐集。茂木本家美術館では、名誉館長である茂木七左衛門が永年収集してきた美術品を展示。	なし	700円	700円	400円	浮世絵の展示
葛飾北斎という人間、浮世絵師・葛飾北斎の美術館。ここは小布施で描かれた肉筆画、画稿、書簡などを展示し、また映像シアターやデジタルコンテンツの展示を通じて北斎・浮世絵の魅力伝える。	なし	800円 (大学生も同額)	500円	無料	浮世絵の展示
すみだ北斎美術館は、葛飾北斎とつながるアートやものづくりを通じて、まちでの新しい交流を生み出し、産業や観光へも寄与する地域活性化の拠点となることを目指す施設である。	北斎とすみだの関わりや北斎の生涯を作品やタッチパネル式情報端末で楽しみながら理解を深めることができる。	常設 400円 大学生・専門学校生・65歳以上 300円	常設 300円	無料	浮世絵の展示
「藤沢市藤澤浮世絵館」は、市民の郷土への愛着を育み、市民の文化の向上に寄与することを目的として、東海道藤沢宿や江の島の浮世絵をはじめとした郷土資料の鑑賞ができる。	なし	無料	無料	無料	浮世絵の展示
江戸時代後期の浮世絵コレクションでは世界最大の美術館である日本浮世絵博物館は、長野県松本の酒井家の浮世絵コレクションをもとに1982年に設立された。	なし	1000円 (大学生)500円	500円	500円 (小学生以下無料)	浮世絵の展示
駅を単なる通過点ではなく、香り高い文化の場として提供したいという願いから1988年に誕生した美術館。	なし	企画展により異なる			駅周辺(内)施設
東京都江戸東京博物館は、江戸東京の歴史と文化をふりかえり、未来の都市と生活を考える場として平成5年(1993年)3月28日に開館。常設展は、徳川家康が江戸に入府してから約400年間を中心に、江戸東京の歴史と文化を実物資料や復元模型等を用いて紹介。	展示室の最後尾に「体感・体験する」コーナーがある。その他体験展示あり。	常設展 600円 大学・専門学校生 480円 65歳以上 300円	300円	都外在住300円	浮世絵の展示
御茶ノ水ソランティの地下1階に、まち歩き起点・情報発信の拠点として整備された街歩きステーション。 利用者オリジナルのまち歩きルートが作れる「まち歩きステーション」、まちの変遷を時代毎の地図とそこにマッピングされた古写真から見ることができる「歴史ギャラリー」などの展示がある。	市民向けイベントスペースあり	無料	無料	無料	小スペース 回遊機能

4. 川崎駅周辺地区のまちづくりの変遷

川崎駅周辺の変遷・動向 ～変貌を遂げた駅周辺、今後も発展が続く～

年度	駅周辺	近隣・関連
H14(2002)	ラ チッタデッラ	
H15(2003)	ミュージア川崎(シンフォニーホール) 川崎 DICE	
H18(2006)	ラゾーナ川崎プラザ(プラザソル)	
H22(2010)		羽田空港の再拡張・国際化
H23(2011)	川崎駅東口駅前広場の再編整備	国際戦略総合特区(キングスカイフロント)
H25(2013)	ラゾーナ川崎東芝ビル(東芝未来科学館) 東海道かわさき宿交流館 高速バス発着停留所	キングスカイフロントまちびらき
H26(2014)		国家戦略特区の指定(東京圏)
H27(2015)	川崎地下街アゼリアのリニューアル	
H28(2016)	京急駅ビル ウィング川崎	
H29(2017)	カルッツかわさき	

↓

H29(2017)	ミュージア⇄ラゾーナのペDESTリアンデッキ 川崎駅北口通路 (行政サービス施設:魅力発信機能)	
H30(2018)		東急REIホテル(キングスカイフロント)開業
(2019)		ラグビーW杯 2019 (調布・新横浜・静岡・豊田ほか)
(2020)		東京 2020 オリンピック・パラリンピック 殿町羽田連絡道路(橋)の完成予定 (仮称)品川新駅 暫定開業
(2022)	西口 JR複合ビル完成予定 (大宮町地区A-2街区 オフィス棟 28F、ホテル棟 18F)	
(2023)	東海道川崎宿 成立 400 年	
(2024)		川崎市 市制 100 周年 川崎大師 大開帳奉修(10 年ごと) (仮称)品川新駅 開業・街開き
(2027)		川崎大師 開創 900 年 リニア新幹線(品川⇄名古屋)開業

関連する市の政策

計画名称	ハード面	ソフト面
<p>総合計画 (H28.03)</p>	<p>広域拠点の整備</p> <p>グローバル化が急速に進展する中で、首都圏の好位置に立地し、鉄道や道路などの恵まれた都市基盤を有する本市の強みを最大限に活かした拠点整備や、時代の変化に応じた都市機能の集積・更新を進めることで、都市の活力を高め持続可能なまちづくりを推進します。</p> <p>a 川崎駅周辺地区</p> <p>商業・業務・文化・都市型住宅等の民間活力を活かしたまちづくりを推進し、特に、西口を中心に、大規模な土地利用転換を適切に誘導するとともに、東口・西口駅前広場の再編など、都市基盤整備を進めることで、広域拠点にふさわしいまちづくりに取り組んできました。</p> <p>今後も、北口自由通路等の整備により、駅東西の回遊性・利便性のより一層の向上を図ります。また、京急川崎駅周辺地区や建物の高経年化が進む東口の既成市街地等において、計画的な土地利用誘導や既存ストックの有効活用など、民間活力を活かした多様な都市機能の集積を図り、<u>本市の玄関口としてふさわしい広域的な集客機能を備えた活力と魅力にあふれるまちづくりを推進します。</u></p>	<p>活力と魅力あふれる力強い都市づくり</p> <p>それぞれの<u>地域の歴史や文化に根ざした川崎らしさを大切にするとともに</u>、スポーツや音楽などの<u>地域資源を磨き上げ、それらが融合しながら変貌を遂げる国際都市川崎の多彩な魅力を発信します</u>。こうしたことにより、都市ブランドを確立し、市民が愛着と誇りを持ち、一層多くの人々が集いにぎわう好循環のまちづくりを進めます。</p> <p>政策4-8</p> <p>スポーツ・文化芸術を振興する</p> <p>経済的な豊かさだけでなく、健康的でおいしいのある質の高い暮らしを求めて、スポーツや文化に親しみたいというニーズが高まっています。本市では、「音楽のまち・かわさき」など、これまで培われてきたスポーツ・文化芸術活動が定着するとともに、世界的に評価の高い施設や市民に親しまれる多くの施設があり、これらを地域資源として活かすことは、市民同士の交流や心豊かで温かなコミュニティの形成、さらには都市としての魅力向上にもつながります。</p> <p>こうしたことから、東京オリンピック・パラリンピックや市制 100 周年を契機として、スポーツ・文化芸術活動を通じて市民が感動を分かち合うとともに、こうした活動をさらに促進することで、自ら暮らすまちに抱く愛着と誇りを次世代に継承していきます。</p> <p>政策4-9</p> <p>戦略的なシティプロモーション</p> <p>本市は、地域ごとに特色ある歴史や文化が育まれ、さまざまな文化・スポーツや、多</p>

		<p>摩川をはじめとした自然環境など、魅力あるさまざまな地域資源を有しています。近年では、交通利便性を活かしたまちづくりによって活気が生み出され、住みやすいまちとして認知されるとともに、産業技術や研究開発機能の集積が、川崎の魅力のひとつとして認識されるようになり、川崎のイメージは着実に向上しています。</p> <p>今後、海外にも通用する抜群の都市ブランドを確立し、市民が愛着と誇りを持ち、誰もが訪れたい川崎をめざすため、<u>地域資源を磨き上げるだけでなく、新たな地域資源の発掘・創出に取り組むとともに、市民や企業などと効果的なコラボレーションを図り、川崎の魅力が広く伝わる戦略的なシティプロモーションを推進します。</u></p>
<p>第2期文化芸術振興計画 (H26.03)</p>	<p>これからの川崎の文化芸術振興の方向性</p> <p>近年、社会環境・生活様式の変化により、文化芸術活動を取り巻く環境は大きく変わってきました。特にインターネット環境の発達は目覚しく、容易に世界に向けて情報を発信することができるようになりました。<u>日本の漫画、アニメなどの新しい文化芸術や、伝統文化が世界各国に広がり、「クール・ジャパン」として世界中で評価されるとともに、日本のこれからの経済や観光の一つの柱となりつつあります。東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まり、世界中から日本への注目が高まっている中、羽田空港に近接し、国内外からのアクセスが非常に良い川崎市は、「川崎の文化」を積極的に発信していくとともに、産業や観光など様々な分野に取り入れ、総合的に文化芸術を活かしたまちづくりを進めることで、国内外から多くの人が集まる国際的な文化都市としての定着を図ります。</u></p> <p>こうした文化芸術を活かしたまちづくりを進めるためには、継続的な取組とこれらを支える文化芸術活動を行う人や、文化芸術を楽しむ人の裾野を広げていく必要があります。そのためには、例えば青少年が身近に良質な文化芸術に触れる場や、地域の伝統芸能などに触れ、楽しめる機会を提供し、青少年の感性を育てていくことなど、将来の「川崎の文化」を支える次世代の担い手を育てていくことが重要です。</p> <p>また、誰もが手軽に文化芸術に触れ、参加することができる環境を作っていく必要があります。小さな子どもを育てている方や高齢の方、障がいのある方など、より多くの方が文化芸術の楽しさを享受できる取組を進めていきます。</p>	

<目指すまちの姿>

- 「川崎の文化」の発信による国際的な文化都市
- まちなかや生活に文化芸術が息づく魅力あるまち
- 文化芸術の担い手が育つ好循環のまち
- 誰もが文化芸術を楽しめるまち

基本目標1 文化芸術や地域の特性・資源を活かしたまちづくり

川崎市には、様々な文化芸術分野で活動する人や多くの文化関連施設、教育機関があり、豊富な資源を活かしたまちづくりが可能となっています。南北に長い地形の中には7つの区があり、それぞれの地域において特色のある伝統的な文化芸術が受け継がれており個性豊かな地域性を有しています。また、「音楽のまちづくり」や「映像のまちづくり」など、文化芸術を活かしたまちづくりが進むなど、新たな文化芸術の形成も注目されています。本市では、音楽や映像、歴史や伝統文化など、地域資源を活かしたまちづくりを推進するとともに、これらの魅力を積極的に国内外に向けて発信し、市民の地域への愛情を増進するとともに都市イメージのさらなる向上を図ります。

施策1 文化芸術を活かしたまちづくりの推進

文化芸術の取組を市民の生活の中に浸透させ、まちづくりに繋げることにより、人々の生活に潤いの溢れる、住む人にとっても、訪れる人にとっても魅力的なまち「川崎」を創造していきます。

施策2 地域資源を活用した特色ある文化芸術活動の推進

多摩川に沿った南北に長い川崎は、それぞれの地域において特色のある文化芸術や伝統芸能が育まれてきました。また、近世では産業の発展とともに企業が発信する文化等も生まれてきています。これら、地域に根ざした川崎独自の文化芸術を活用したまちづくりを進め、魅力の発信を行っていきます。

施策3 「川崎の文化」の国内外への発信

魅力的な川崎の文化芸術を育てるとともに、国内外に向けて発信することにより、都市イメージの向上や観光客の誘致を図り、個性と魅力が輝くまちづくりを進めていきます。

基本目標3 市民が文化芸術に触れる環境・活動できる環境の整備

市内では、音楽や絵画などの多様な文化芸術活動や、地域で受け継がれてきた民俗芸能の保存伝承など多様な活動が行われており、美術館やホール等の文化施設で鑑賞や発表などの文化芸術活動が行われています。

市民による文化芸術活動がより活発に行われるとともに、誰もが文化芸術に触れ、楽しめる機会を増やしていくことにより「魅力にあふれ、市民が愛着と誇りをもって暮らすことができるまちづくり」を進めていきます。

	<p>施策1 文化施設等の効果的な運営</p> <p>市民の文化芸術活動の拠点ともなる文化関連施設については、適切な管理運営やアウトリーチ活動の実施等により、市民が文化芸術に触れるきっかけとなるほか、市民が身近に文化芸術に触れ、親しむことができる環境を提供していきます。</p> <p>施策2 市民が身近に文化芸術に触れる機会の提供</p> <p><u>まちなかや身近な場所において市民が気軽に文化芸術を楽しむことができる環境づくりを行うことにより文化芸術の裾野を広げるとともに、ホール等に足を運びにくい環境の方々にも文化芸術を楽しんでいただける機会を提供します。</u></p>
<p>新・かわさき 観光振興プ ラン (H28.02)</p>	<p>戦略3.「川崎駅周辺エリア」の国際的な観光拠点化</p> <p><u>川崎駅周辺の商業集積力や交通利便性など恵まれた立地条件を活かし、広域エリアが一体となって買物、エンターテインメント、文化芸術、スポーツ、飲食、宿泊など総合的な機能を強化し、国際的な観光拠点性を高めます。</u>また、かわさき観光のハブとして、国内外からの来街を誘致するとともに、「産業観光」や「生田緑地」と連携し、公共交通機関の利用を促進しながら、市全体への波及効果の拡大を図ります。</p> <p>施策内容</p> <p>①広域的な集客力の強化</p> <p>《短期》</p> <p>■<u>首都圏から川崎駅周辺への誘客</u></p> <p>・川崎最大の繁華街である川崎駅周辺では、ショッピングモール等の商業施設やシネマコンプレックス、駅直結の産業観光施設（東芝未来科学館）、音楽のまち・かわさきのシンボルである「ミューザ川崎シンフォニーホール」など、買物、エンターテインメント、文化芸術、飲食・宿泊など総合的な機能が集積しています。</p> <p>・また、駅東口周辺には「川崎市スポーツ・文化総合センター」や公営競技（競輪場・競馬場）などの施設、日吉地区には、市内唯一の動物園として間近で動物たちに触れ合える「夢見ヶ崎動物公園」などの特徴的な施設が立地しています。</p> <p>・こうした川崎駅周辺の異分野の施設を観光面でも活用しながら、エリアが一体となったまちの魅力を強化していきます。</p> <p>■<u>立地条件を活かしたセールス・プロモーション</u></p> <p>・東京・横浜・羽田空港とのアクセスに優れた立地条件を活かして、川崎駅周辺エリアの施設やイベント情報や魅力の発信など、空港内でのセールス・プロモーション活動を展開し、川崎立ち寄りを促進します。</p> <p>■<u>外国人もショッピングを愉しめる環境の充実</u></p> <p>・飲食店や家電量販店、ドラッグストアなどが集積する川崎駅周辺の商店街や商業施設での食事や買い物回遊の促進に向けて、訪日外国人向けの買物マップなど、ショッピン</p>

グガイドの充実を図るとともに、クーポン等による特典などで来街インセンティブを付与することなどにより外国人も気軽にショッピングが楽しめる環境の充実を図ります。

・合わせて、東海道かわさき宿交流館や稲毛神社など外国人でも楽しめる「和」にスポットを当てて、川崎駅周辺の集客・滞在を促進します。

《中長期》

■川崎駅北口魅力発信施設の活用

・川崎駅北口自由通路の供用開始時に開設予定の魅力発信施設において、川崎駅周辺のまちの情報の他、産業観光や生田緑地をはじめとする市域全体の観光情報や地域の魅力を発信し、かわさき観光と来街者のコミュニケーションを促進します。

■多様な来街者に対応する受入体制の充実

・インバウンド観光の取組を推進し川崎の認知度の向上や目的地化を進めるとともに、こうした経験を蓄積しながら、将来的には海外の富裕層や MICE の招待客なども含めた多様な来街者をもてなせるような施設やサービスの充実へとつなげていきます。

②川崎大師周辺との連携・一体化

《短期》

■川崎大師周辺の通年型観光地化の促進

・川崎大師周辺では、今後の羽田連絡道路の開通による立地優位性の高まりを視野に入れて「まちのゆしみ力」の強化を図ります。

・初詣でにぎわう1月以外にも来訪者を愉しませることのできるよう、楽大師や風鈴市をはじめとした様々な行事の情報発信や周辺の地域団体が実施する観光まちづくりの取組を支援します。

・また、川崎大師の全国的な知名度や奇祭として知られる金山神社の「かなまら祭」の人気などを活かして魅力の強化・発信を進めることとし、筆や書、厄除け、縁起、願掛けなど、寺社の文化や伝統・伝承等にちなんで訪日外国人などが興味・関心を示しそうなメッセージ性も検討しながら、羽田空港における川崎大師観光の発信・プロモーションに注力します。

■川崎駅周辺のホテル等と連携した滞在型観光の促進

・川崎駅周辺、川崎大師周辺それぞれのまちとしての観光客の受入体制やおもてなしの充実を図りながら、臨海部等の産業観光や市内のホテル等と連携した滞在型観光に取り組みます。

《中長期》

■四季を通じて楽しめる広域的なエリアとしての機能充実

・通年型・滞在型のまちの魅力づくりと併せて、より広域的な観光商品化を推進します。

川崎駅周辺・川崎大師周辺を一体的なエリアとして捉え、このエリアに立地する集客力のある施設、知名度の高い施設、観光差別化のできる個性的な施設等がつながった面

	<p><u>的な「まちのゆしみ力」を強化するとともに、市域を超えた広域連携の取組などを活発化させていきます。</u></p> <p>③交通アクセシビリティの強化とネットワーク化</p> <p>《短期》</p> <p>■川崎駅周辺の交通結節昨日の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川崎駅周辺において、民間主導の企画ツアーが実施されやすい環境整備に向け、ツアーバス等の乗降スペースについて検討します。 ・日本各地と川崎とを連絡する高速路線バスを活かして、web によるプロモーションを強化するとともに、広域的な商圈を視野に入れてバスツアーの造成を図るなど、観光振興に資する交通機能の強化・拡充を促進していきます。 <p>■羽田・殿町地区等と川崎駅周辺の連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・羽田連絡道路の整備に向けた取組や殿町地区(キングスカイフロント)整備などと連動して、川崎駅周辺市街地とのアクセス強化に向け、ユニバーサルデザインタクシーやまちなかのホテル等と羽田空港を結ぶ直行バス等、民間事業者の主体的な取組を支援するなど、多様な交通手段の確保について検討します。 <p>《中長期》</p> <p>■自転車等の観光活用の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川崎競輪場や市内の自転車メーカーなどの自転車に係る施設や企業、多摩川サイクリングコースや平坦な地形(川崎区・幸区・中原区)などの特色を活かし、自転車の観光利用(サイクルイベント等)や、観光アクセス手段としての自転車利用(レンタサイクル等)の導入等を検討します。
<p>京急川崎駅 周辺地区ま ちづくり整備 方針 (H27.03)</p>	<p>①まちづくり基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ○<u>羽田空港直結の立地特性を活かした国際性豊かなにぎわいのあるまちづくり</u> ○防災性が高く地区を訪れる誰もが安心・安全で快適に利用できるまちづくり ○環境に配慮したスマートなまちづくり <p>②目指すべき都市像</p> <p>京急川崎駅を中心とした「核」と周辺市街地との調和を図る「ゾーン」の形成</p> <p>「まちづくり基本方針」に沿って、持続可能で活気にあふれたまちづくりの実現に向け、京急川崎駅を中心とした「核」と周辺市街地との調和を図る「ゾーン」を形成し、民間活力によるまちづくりを誘導するとともに、「核」や「ゾーン」との連携を図る「軸」造りを民間と行政が連携して効果的に進めることで、新たな魅力や価値の創出を誘導します。</p> <p>■川崎の玄関口にふさわしいにぎわい・交流核</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通拠点の利便性を活かして、広域拠点にふさわしい商業・業務を主体とした高度で多様な都市機能の集積を促進します。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土地の高度利用や集約的な街区形成により川崎の玄関口にふさわしい都市的な景観形成を誘導します。 ・ 殿町国際戦略拠点など市内に集積する企業や研究施設と連携するグローバル企業の活動拠点形成を促進します。 <p>■人やモノが交流する複合市街地ゾーン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 川崎駅周辺にある商業・業務機能や市内に集積する企業・研究施設などの<u>既存ストックと連携・調和した「国内外の人やモノが集い交流できる機能」や「居住・生活サポート機能」の導入を促進します。</u> ・ 多摩川の自然環境や景観を活かし、民間の土地利用転換にあわせ職住の調和がとれた都市空間の形成を図ります。
<p>川崎駅周辺 総合整備計画 (H28.03)</p>	<p>《基本施策》</p> <p>2 回遊性の強化</p> <p>多様な商業機能の集積や、駅東西地区の一体化等によるまちの利便性や回遊性を高め、誰もが安全・安心に往来しやすく、にぎわいのあるまちづくりを推進します。</p> <p>また、<u>東海道など地域の歴史・文化資源を活かした、新たなまちの魅力を創造・発信するなど、地域への愛着を持てる魅力あるまちづくりを推進します。</u></p> <p>本庁舎等建替えにおいては、市民が憩えるオープンスペースや、多様な主体が集い、交流の場となるにぎわい空間を創出します。</p> <p>(4) 駅東西地区の一体化等による回遊性の強化</p> <p>JR川崎駅東西自由通路の混雑緩和を図るため、北口自由通路と新たな改札口の整備を推進するとともに、ミュージア川崎とラゾーナ川崎東芝ビルを結ぶ堀川町C地区連絡ペDESTリアンデッキの整備を進め、利便性・回遊性の向上を図ります。</p> <p>また、大宮町A-2街区等の土地利用転換の機会も捉えつつ、回遊性や利便性の更なる強化を見据えた取組を推進します。「京急川崎駅周辺地区まちづくり整備方針(平成27(2015)年3月)」に基づき、民間開発の機会を捉え、駅東西地区やJR川崎駅と京急川崎駅周辺の歩行者動線の充実、にぎわいの創出を誘導します。</p> <p>本庁舎等建替えにあたり、本庁舎低層棟での情報発信や交流の場の創出や、第2庁舎跡地でのイベント等の開催が可能な広場の整備など、駅周辺へのにぎわいの波及効果の創出に向けた取組を推進します。</p> <p>(5) 東海道の歴史と文化を活かしたまちづくりの推進</p> <p>平成32(2020)年東京オリンピック・パラリンピックも見据えながら、「東海道かわさき宿交流館」を拠点として、江戸風意匠に富む街並みの形成など、<u>回遊しながら街に滞在したくなる取組を推進します。</u></p>

	<p>6 グローバル化への対応</p> <p><u>羽田空港の国際化の進展や、平成 32(2020)年東京オリンピック・パラリンピックの開催等による新たなビジネスチャンスの活用、地域資源や立地特性を活かした観光・商業の振興を図るため、国際化を見据えたまちづくりを推進します。</u></p> <p>(15) 国際化を見据えた都市拠点の形成</p> <p>我が国の経済発展を牽引する成長戦略拠点の形成に寄与する羽田連絡道路の整備などを見据え、殿町国際戦略拠点(キング スカイフロント)などの市内に集積した企業・研究施設と連携するグローバル企業の活動拠点等の充実に取り組みます。</p> <p>また、平成 32(2020)年東京オリンピック・パラリンピックの開催等による訪日外国人の増加などを見据えた都市拠点の形成を推進します。<u>多くの外国人を魅了することができるような観光資源を活用するとともに、羽田空港からのアクセスなど、川崎駅周辺の立地特性を活かした観光施策等の拡充を図ります。</u></p> <p>(16) 多言語による案内・情報発信の充実</p> <p>平成 32(2020)年東京オリンピック・パラリンピックの開催等による訪日外国人の増加などを見据えて、多言語による案内サインや各種メディアの効果的活用によるシティプロモーションを推進します。また、川崎駅北口自由通路に設けられる川崎市行政サービス施設や壁面等を活用した情報発信を推進します。</p> <p>9 商業活性化の推進</p> <p>川崎駅周辺地区には、ショッピングモール、市内最大規模の商店街、地下街アゼリア等の商業施設や、シネマコンプレックスやミュージアム川崎シンフォニーホール、東芝未来科学館等、魅力ある集客施設が集積しています。<u>こうした商業集積や交通利便性などの立地特性を活かしながら、活力と魅力ある広域拠点の形成を目指し、地域全体の回遊性強化を図ります。</u></p> <p>また、地域を活性化するイベントや事業の支援を行うことで、川崎駅東西を含めた中心市街地の更なる活性化に向けた取組を推進します。</p> <p>(23) 既存ストックを活用したにぎわいの創出</p> <p>大型商業施設跡地や空き店舗、市有財産など、民間活力等を活かして、これまで蓄積してきた既存の都市機能を活用することにより、にぎわいの創出や新たな魅力・活力を生み出す取組を推進します。</p> <p>(24) にぎわいと活力に満ちた身近な商店街の形成</p> <p>まちのにぎわいや回遊性の向上をめざし、多数の大型商業施設や商店街が集積する商業エリアにおいて、ブランド力のある商業集積地を形成する取組を行い、その魅力を内外に発信することで、更なる集客とにぎわいの創出を図ります。また、まちづくりと連動し、商店街が人々の交流や情報交換の場として、地域の人々の暮らしを支援する機能を持ち、コミュニティ形成の一助となるための取組を支援します。</p>
--	--

浮世絵等の活用に向けた基本方針（案）

平成30年4月

川崎市

（お問い合わせ先）市民文化局市民文化振興室

電 話：044-200-2294

F A X：044-200-3248

浮世絵等の活用に向けた基本方針（案）に関する意見募集

平成 28(2016)年 9 月 17 日に休館(現在、展示施設としては事実上閉館)した「川崎・砂子の里資料館」は、平成 13(2001)年の開館から東海道川崎宿沿いで約 15 年間にわたり歌川広重や葛飾北斎など、「公益社団法人川崎・砂子の里資料館」が所有する浮世絵作品等を展示してきました。

そして、平成 29(2017)年 8 月に、同法人から本市に対し、同法人所有の浮世絵コレクションを有効活用し、日本文化の世界への発信、文化芸術振興や地域の魅力向上のために資する効果的な方策の検討依頼の申し出がありました。

本市政策を推進するにあたり、地域の歴史・文化資源として、同法人所有の浮世絵コレクションを有効活用することができる可能性が高いことから、本市として浮世絵コレクションの活用について検証を行い、計画的・効果的な推進に向け、基本方針(案)を策定しましたので、市民の皆様からの御意見を募集いたします。

1 意見募集の期間

平成 30(2018)年 4 月 23 日(月)～平成 30(2018)年 5 月 22 日(火)

※郵送の場合は、当日消印有効です。

※持参の場合は、午前8時30分から午後5時15分まで(土曜日・日曜日・祝日を除く)にお持ちください。

2 資料の閲覧場所

- (1) 市民文化局市民文化振興室(川崎市川崎区駅前本町 11-2 川崎フロンティアビル 9 階)
- (2) 各区役所・支所及び出張所の閲覧コーナー、各市民館、各図書館
- (3) 情報プラザ(川崎市役所第 3 庁舎 2 階)
- (4) 市ホームページ

3 意見の提出方法

郵送、持参、FAX、市ホームページのフォームメールにて御意見をお寄せください。御意見には、題名、氏名及び連絡先(電話番号、メールアドレス又は住所)を記入(書式は自由)してください。

- (1) 郵送・持参
〒210-0007 川崎市川崎区駅前本町 11-2 川崎フロンティアビル 9 階
川崎市市民文化局市民文化振興室
- (2) ファクス
044-200-3248(市民文化局市民文化振興室)
- (3) ホームページ
市ホームページのパブリックコメント専用ページから送信

4 その他

※意見書の氏名及び連絡先は、意見内容を確認させていただく場合があるため記載をお願いするものです。他の目的には利用せず、適正に管理します。

※お寄せいただいた御意見に対して個別には回答しませんが、市の考え方を内容ごとに整理・要約し、後日、市のホームページ等で公表します。

【問合せ先】

川崎市市民文化局市民文化振興室

電話：044-200-2444 FAX：044-200-3248

E-mail：25bunka@city.kawasaki.jp